

## 2021年度開講科目の授業計画（シラバス）

基礎科目	頁
<b>【思考と表現】</b>	
(1) 基礎ゼミ I	1
(2) 基礎ゼミ II	3
(3) 英語 I	5
(4) 英語 II	7
(5) 中国語 I	9
(6) 中国語 II	11
(7) 日本語の表現	13
(8) 哲学入門	15
(9) クリティカル・シンキング	17
(10) 情報処理演習 I	19
(11) 情報処理演習 II	21
<b>【人間と社会の理解】</b>	
(12) 現代社会と保健・医療・福祉	23
(13) 人間関係と家族	25
(14) 心理学入門	27
(15) 教育学概論	29
(16) ボランティア論	31
(17) 健康・スポーツ実践 I	33
(18) 社会学入門	35
(19) 経済学入門	37
(20) 経営学入門	39
(21) 法学入門	41
<b>【自然科学の基礎】</b>	
(22) 基礎生物学	43
(23) 基礎化学	45
(24) 基礎物理学	47
(25) 基礎数学	49
(26) 統計学入門	51

専門基礎科目	頁
<b>【医学系基礎】</b>	
(27) 人体の構造と機能 I	53
(28) 人体の構造と機能 II	55
(29) 基礎医学実習	57
(30) 医学概論	59
(31) 病理学	61
(32) 生化学	63
<b>【理工学系基礎】</b>	
(33) 応用数学	65
(34) 医用電気工学 I	67
(35) 医用電気工学 II	69
(36) 医用電気工学実験	71
(37) 情報科学概論	73

専門科目	頁
<b>【医用生体工学】</b>	
(38) 臨床工学概論	75
<b>【医用機器学】</b>	
(39) 医用機器学概論	77
<b>【地域・連携】</b>	
(40) 多職種連携概論	79

発展科目	頁
<b>【医工連携・専門発展】</b>	
(41) 医療機器産業論	81

授業科目名	基礎ゼミ I	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	複数の専任教員による担当	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	演習及び講義

キーワード	大学における学修、主体的・能動的な学修姿勢、文章作成力、プレゼンテーションの基礎
授業の目的	大学における学修に関する知識及び技能の基礎を身につけ、専門分野の学修や生涯学修力の基礎作りをする。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP1（態度・志向性） 自主的・自立的な姿勢を有し、諸般の課題に対し必要と認めることを実行する積極性ととともに、計画性・継続性を持って粘り強くやり遂げる素養を有している。また、自らが関わりあう様々な社会の中で、修得した能力を生かし社会に貢献していく意欲及びそのための素養を有している。</p> <p>◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。</p> <p>◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p> <p>▲DP8（諸々の能力等を総合的に生かす力）</p>
◎＝主な関連項目、▲＝副次的関連項目	
到達目標	<p>1 大学における学修のあり方を理解し実践できる。</p> <p>2 テーマに沿って、短い文章やレポートを適切に作成することができる。</p> <p>3 論理的なコミュニケーションの仕方を実践できる。</p>

授業の概要	4年間の大学での学修・研究活動を円滑かつ効果的に行い、より良い成果を得るためには、まずその土台となる知識やスキルを習得する必要がある。こうした能力は、いわゆる学士力の基礎となるもので、社会においても必要となる重要なものである。本授業では、まずレポートや論文作成はもとより、様々な社会活動の基礎となる文章作成力向上のため、比較的短い文章の作成練習を行いながら文章作成方法を修得する。また、社会において重要となるコミュニケーション力や論理的思考力の養成を意識しながらディスカッションやプレゼンテーションを行う。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末課題及び中間課題と授業への参加態度を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
期末課題及び中間課題	60%	到達目標の2をクリアできているかどうかを評価	
授業への参加態度	40%	グループワークやプレゼンテーションへの参加を通して到達目標1や3の達成度を評価	
課題に対するフィードバックの方法	期末試験・中間報告	授業中に総評を行うとともに、個別に講評を提供する。	
	授業への参加態度	授業中に総評を行うとともに、個別に講評を提供する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	理科系の作文技術	木下是雄	中央公論新社	978-4121006240
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	オリエンテーション レポート・論文の作成方法の基礎	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
2	文章理解① ・文書の論旨把握、要約の方法	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
3	文章理解② ・文書の論旨把握、修正の方法	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
4	小レポートの作成① ・テーマに即した小レポートの作成（準備）	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
5	小レポートの作成② ・テーマに即した小レポートの作成（講評）	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
6	小レポートの作成③ ・テーマに即した小レポートの作成②（準備）	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
7	小レポートの作成④ ・テーマに即した小レポートの作成②（講評）	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
8	グループワーク① ・小人数グループによる小レポート作成（準備）	演習	グループワーク関連の準備等	1.0 時間
9	グループワーク② ・小人数グループによる小レポート作成（講評）	演習	グループワーク関連の準備等	1.0 時間
10	ディスカッション ・ディスカッションの方法とルール ・資料を用いたディスカッション	演習	中間課題の作成・提出	2.0 時間
11	グループワーク① ・グループのプレゼンテーション資料の作成①	演習	グループワーク関連の準備等	1.0 時間
12	グループワーク② ・グループのプレゼンテーション資料の作成② ・中間報告及びディスカッション	演習	グループワーク関連の準備等	1.0 時間
13	グループワーク③ ・グループのプレゼンテーション資料の作成③	演習	プレゼンテーションに向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
14	プレゼンテーション① ・2クラス合同によるグループプレゼンテーション①	演習	プレゼンテーションに向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
15	プレゼンテーション② ・2クラス合同によるグループプレゼンテーション②	演習	期末課題の作成と提出	2.0 時間

		備 考
受講上の 注意点	この授業は、複数の専任教員が学生を分担し、演習形式を中心に実施する。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	人に分かりやすく伝えるようになりましょう。	

授業科目名	基礎ゼミ II	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	複数の専任教員による担当	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	演習

キーワード	論文作成の基礎力、主体的・能動的な学修姿勢、プレゼンテーション・スキルの向上
授業の目的	大学における学修に関する知識及び技能を向上させ、専門分野の学修や生涯学修力の基礎作りをする。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP 1 (態度・志向性) 自主的・自立的な姿勢を有し、諸般の課題に対し必要と認めることを実行する積極性ととも、計画性・継続性を持って粘り強くやり遂げる素養を有している。また、自らが関わりあう様々な社会の中で、修得した能力を生かし社会に貢献していく意欲及びそのための素養を有している。</p> <p>◎DP 3 (コミュニケーション力・協働する力) 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP 4 (教養や探究心) 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。</p> <p>◎DP 5 (様々なリテラシーと論理的思考力) 研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p> <p>▲DP8 (諸々の能力等を総合的に生かす力)</p>
◎=主な関連項目、▲=副次的関連項目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大学における学修のあり方を理解し実践できる。</li> <li>2 テーマに沿って、簡単な論文等を適切に作成することができる。</li> <li>3 論理的なコミュニケーションの仕方を実践できる。</li> </ol>

授業の概要	本授業では、基礎ゼミ 1 に引き続き、いわゆる学士力の基礎となる能力の養成を図る観点から、主に基礎的な論文作成力やプレゼンテーション能力の向上のための演習を行う。具体的には、比較的長めの文章(レポート)の作成練習を行うことで論理的な文章作成方法の基礎を理解するとともに、3~4名のグループにより、設定されたテーマに即して発表用資料を作成し、そのプレゼンテーションを行い、クラス内でディスカッションを行う。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末課題及び中間課題と授業への参加態度を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
期末課題及び中間課題	60%	到達目標の2をクリアできているかどうかを評価	
授業への参加態度	40%	グループワークやプレゼンテーションへの参加を通して到達目標1や3の達成度を評価	
課題に対するフィードバックの方法	期末試験・中間報告	授業中に総評を行うとともに、個別に講評を提供する。	
	授業への参加態度	授業中に総評を行うとともに、個別に講評を提供する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	理科系の作文技術	木下是雄	中央公論新社	978-4121006240
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	提示テーマに沿ったレポート作成 part1①	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
2	提示テーマに沿ったレポート作成 part1②	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
3	提示テーマに沿ったレポート作成 part1③	演習	授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間
4	レポートに関する講評 講評を踏まえたディスカッション	演習	次回授業に向けて、提示テーマに係る情報収集	1.0 時間
5	提示テーマに沿ったレポート作成 part2①	演習	次回授業に向けて、提示テーマに係る情報収集	1.0 時間
6	提示テーマに沿ったレポート作成 part2②	演習	次回授業に向けて、提示テーマに係る情報収集	1.0 時間
7	提示テーマに沿ったレポート作成 part2③	演習	次回授業に向けて、提示テーマに係る情報収集	1.0 時間
8	レポートに関する講評 講評を踏まえたディスカッション	演習	中間課題の作成・提出	2.0 時間
9	グループワーク① ガイダンス、グループ分け、テーマ設定	演習	プレゼンテーション発表に向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
10	グループワーク② グループごとの発表資料作成	演習	プレゼンテーション発表に向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
11	グループワーク③ グループごとの発表資料作成	演習	プレゼンテーション発表②に向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
12	プレゼンテーション① グループごとの発表資料作成①	演習	プレゼンテーション発表②に向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
13	プレゼンテーション② グループごとの発表資料作成②	演習	プレゼンテーション発表②に向けた作業（グループ作業を含む）	1.0 時間
14	プレゼンテーション③ 発表（2回目）と相互評価	演習	期末課題作成に向けた準備	1.0 時間
15	プレゼンテーションを踏まえた期末課題の作成	演習	期末課題の作成・提出	4.0 時間

		備 考
受講上の注意	この授業は、複数の専任教員が学生を分担し、演習形式を中心に実施する。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	人に分かりやすく伝えるようになりましょう。	

授業科目名	英語 I	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	川越 栄子	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	演習

キーワード	英語 4 技能、科学系雑誌、様々なサイエンス分野
授業の目的	医療の国際化に貢献できる医療人となるために必要な英語 4 技能の基礎力を習得し、文法の復習もする。サイエンスの様々な分野を幅広く英語で学び、最新の科学情報を英語で得る習慣をつける。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP 3 (コミュニケーション力・協働する力)</p> <p>多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP 5 (様々なリテラシーと論理的思考力)</p> <p>研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及び IT に係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p>
◎=主な関連項目、▲=副次的関連項目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床工学技士に必要な英語の初級リスニングができる。</li> <li>2. 臨床工学技士に必要な英語の初級リーディングができる。</li> <li>3. 臨床工学技士に必要な英語の初級スピーキングができる。</li> <li>4. 臨床工学技士に必要な英語の初級ライティングができる。</li> </ol>

授業の概要	<p>科学系雑誌「National Geographic Explorer」の掲載記事を用いた英語総合教材の英文を聴き、読む。また、様々なサイエンスの各テーマについてプレゼンテーションの原稿を英語で書き、実際にプレゼンテーションをする。このようにして英語の 4 技能の基礎をバランスよく伸ばし、文法の復習もする。</p> <p>なお、サイエンス記事は教科書によって学ぶだけでなく、最新のサイエンスニュースを随時、視聴、読解する事で、最新の科学情報を英語で得る習慣をつける。</p>
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験とプレゼンテーションを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	70 %	授業の内容が習得できているかで評価する。	
プレゼンテーション	30 %	授業中のプレゼンテーションの内容で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	試験期間後に模範解答及び解説を配布する。	
	プレゼンテーション	評価基準を示した上で解説を行う。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	Science Frontiers	Keiko Hattori, et. al.	NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING	978-4-86312-289-5
参考書等	National Geographic Explorer			

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	Unit 1. Bare Bones (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
2	Unit 2. Mummy Mystery (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
3	Unit 3. Swim with Seahorses (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
4	Unit 4. Mission to Mars (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
5	Unit 5. Feed the World (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
6	Unit 6. Into the Rain Forest (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
7	Unit 7. Turn Up the Heat (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
8	Unit 8. Free Fall (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
9	Unit 9. The Hidden Lives of Leaves (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
10	Unit 10. Getting the Shot (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
11	Unit 11. Attack of the Germs (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
12	Unit 12. Just Like the Earth? (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
13	Unit 13. The Skin You're In (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
14	Unit 14. Weirdest Wonders (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間
15	Unit 15. Aquarius (Listening, Reading)	演習	予習：質問を考えておくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0時間 2.0時間

		備 考
受講上の 注意点	必ず予習・復習をしてください。授業 に出席するだけでは英語力はつきませ ん。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習 方法や授業に関する質問・相談を受付 けます。	
受講生への メッセージ	普段からニュース、新聞、映画などで サイエンスに関連した知識を広めるよ うに心がけてください。	

授業科目名	英語Ⅱ	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	川越 栄子	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	演習

キーワード	英語4技能、医療ニュース、世界医療事情
授業の目的	医療の国際化に貢献できる医療人となるために必要な英語4技能の基礎力を習得し、文法の復習もする。医療関連の様々な分野を幅広く英語で学び、最新の医学・医療情報を英語で得る習慣をつける。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p>
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床工学技士に必要な英語の初級リスニングができる。</li> <li>2. 臨床工学技士に必要な英語の初級リーディングができる。</li> <li>3. 臨床工学技士に必要な英語の初級スピーキングができる。</li> <li>4. 臨床工学技士に必要な英語の初級ライティングができる。</li> </ol>

授業の概要	<p>The Japan Times, VOA などの比較的読みやすい英語医療ニュースを集めた教材の英文を聴き、読み、医療英語の基本用語と表現を学ぶ。また、医療関連の各テーマについてプレゼンテーションの原稿を英語で書き、実際にプレゼンテーションをする。このようにして英語の4技能の基礎をバランスよく伸ばし、文法の復習もする。</p> <p>なお、世界の医療ニュースは教科書によって学ぶだけでなく、最新の医療ニュースを随時、視聴、読解する事で、最新の医療情報を英語で得る習慣をつける。</p>
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験とプレゼンテーションを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	70%	授業の内容が習得できているかで評価する。	
プレゼンテーション	30%	授業中のプレゼンテーションの内容で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	試験期間後に模範解答及び解説を配布する。	
	プレゼンテーション	評価基準を示した上で解説を行う。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	ニュースで読む医療英語	川越栄子	講談社	978-4061563100
参考書等	The Japan Times Voice of America Newsweek			



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	Chapter 1. A. Green Tea, Coffee May Cut Stroke Risk (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
2	Chapter 1. B. Moderation Best for Eating Meat, Milk Products (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
3	Chapter 2. What Do You Know about the Common Cold? (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
4	Chapter 3. WHO: One-Third of All Cancer Deaths Are Preventable (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
5	Chapter 4. Depression Is a National Ailment That Demands Open Recognition in Japan (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
6	Chapter 5. Eight Million People Now Being Treated for HIV (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
7	Chapter 6. Medevac Copters Soon to Cover Entire Nation (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
8	Chapter 7. Hands-Only CPR Is a Simpler Way to Save Lives (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
9	Chapter 8. Mental Health Must Match Post-3/11 Recovery (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
10	Chapter 9. India's Giggling Guru Counsels Laughing Yoursel to Good Health (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
11	Chapter 10. World's First Clinical Trials with Human iPS Cells OK'd (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
12	Chapter 11. Rules for Online Drug Sales (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
13	Chapter 12. New Parental Diagnosis May Start New Month (Listening, Reading)	演習	予習：教科書を読んでおくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
14	Chapter 13. The Risks of Language for Health Translators (Speaking, Writing)	演習	予習：教科書を読み、プレゼンの原稿を書くこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間
15	Chapter 14. Fewer Children under Age 5 Are Dying (Listening, Reading)	演習	予習：質問を考えておくこと。 復習：授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	2.0 時間 2.0 時間

		備 考
受講上の注意点	必ず予習・復習をしてください。授業に出席するだけでは英語力はつきません。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	普段からニュース、新聞、映画などで医療に関連した知識を広めるように心がけてください。	

授業科目名	中国語 I	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	張 蘭	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	演習

キーワード	口頭、発音、中国語会話、コミュニケーション、日中の文化の違い
授業の目的	日本人学習者にとって中国語の難しい有気音と無気音、「-n」と「-ng」で終わる鼻母音、そり舌音、声調（四声）の学習を通じて、中国語の初歩的な「リスニング、スピーキング」能力を養成が目指される。日本の漢字と誤用されやすい中国の簡体字に注意して、中国語の基礎語彙、日常用語を覚え、基本語順パターン、基礎的な言い回し、簡単な会話など中国語のエッセンスを学習する。徹底的に発音練習をこなし、実用的なすぐに役立つ中国語会話を確実に身につけることである。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。 ◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 中国語の発音の基本である母音・子音・声調を聞き分けられる。 2. 自分で中国語の発音ができる。 3. 中国語の日常の挨拶や自己紹介、簡単な会話ができる。 4. 中国人と簡単なコミュニケーションができる。

授業の概要	本授業は、初めて中国語を習う人、いわゆる初心者を対象に、中国語の基本である発音と簡単な会話を中心に学修する。具体的には、中国語の発音を教えてくれる大事な役割を果たすピンイン（ローマ字による中国語表記法）について、毎時間、ピンインの発音のポイントを提示して、それを練習し、マスターする。また、並行して教科書の表現をベースに、中国語会話と簡単な語法を学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末試験、小テスト、授業への取組姿勢を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
期末試験（筆記）	50%	発音記号を理解し、基本の語彙、語順、文法を習得しているのかで評価	
期末試験（口頭）	20%	中国語で聞かれた質問に、中国語で正しく応答できるかどうかで評価	
小テスト	10%	書き取りや読み取りの小テストを随時実施し毎回成績の記録を残して評価	
授業への取組姿勢	20%	予習・復習・宿題の完成度及び授業中の発音練習に積極的に参加しているかで評価	
課題に対するフィードバックの方法	期末試験	模範解答により解説する。	
	小テスト	授業中に答え合わせ、もしくは先生から採点、登録後に返却する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	中国語のおもてなし 入門編	相原茂 監修 本間由香利、蘇紅著	郁文堂	978-4-261-01883-7
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	ガイダンス：中国語とは 中国及び中国語の紹介、学習方法、授業の進め方と評価基準	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。	1.0時間
2	発音（1） 声調、母音（単母音、複母音）	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：CDを聞き、発音練習を行う。	1.0時間 3.0時間
3	発音（2） 子音、軽声	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：CDを聞き、発音練習を行う。	1.0時間 3.0時間
4	発音（3） 鼻母音、声調変化	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：CDを聞き、発音練習を行う。	1.0時間 3.0時間
5	発音（4） 声調の組み合わせ、r化、あいさつ言葉	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：CDを聞き、発音練習を行う。	1.0時間 3.0時間
6	プロローグ 名前の言い方、尋ね方、数字、月日の表現 グループ会話（自己紹介、名前と誕生日を尋ねてみる）	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
7	第1課 中国のかたですか 動詞述語文、「AはB」文、「～吗？」疑問文、指示代名詞	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
8	グループ会話 中国人観光客にインタビュー（国籍や入国回数、家族構成を尋ねてみよう）	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録の復習シートを解きながら暗誦する。	1.0時間 3.0時間
9	第2課 あなたの家はどこにありますか 形容詞述語文、所有を表す動詞「有」、存在を表す動詞「在」	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
10	グループ会話 女の子の人形についていろいろ尋ねてみよう（形容詞を使ってみよう）	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録の復習シートを解きながら暗誦する。	1.0時間 3.0時間
11	第3課 今日はどこに行きますか 「有」と「在」、連動文、助動詞「想」と「要」、時間詞	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行う。	1.0時間 3.0時間
12	グループ会話 行き先について尋ねてみよう	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録の復習シートを解きながら暗誦する。	1.0時間 3.0時間
13	第4課 娘は切符を買う必要がありますか 助動詞「要」、年齢の言い方、～と「和」と「跟」、時刻	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
14	グループ会話 子供料金について、密着取材の交渉	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録の復習シートを解きながら暗誦する。	1.0時間 3.0時間
15	まとめ 第1課～第4課で習った文を暗誦し、質問に答えてみよう	講義 口頭試験	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：第1課～第4課をしっかり復習する。	3.5時間 3.5時間

		備考
受講上の注意点	全員参加型の授業をしますので、積極的に参加してください。語学の勉強には暗誦がお勧めです。予習復習にCDを十分に活用して、聴く、復唱、暗誦という順に、一定な時間を確保して学習するように。授業中には関係のない私語や、遅刻、途中退室は認めません。	
連絡先（質問等）	授業実施日に随時質問に応じる。試験前に質疑応答の時間を設ける。	
受講生へのメッセージ	現在世界中で、英語の次に学ばれているのが中国語です。これからの日中関係はどうか、文化、経済、貿易、観光の面での交流は絶えることなく、影響し合う仲なので、皆さんの将来のために、ぜひ中国語を身につけておきましょう。	

授業科目名	中国語Ⅱ	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	張 蘭	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	演習

キーワード	口頭、中国語会話、コミュニケーション、日中の文化の違い
授業の目的	前期の学習に引き続き、身につけた発音の基礎を活かし、自ら中国語を読める、話せる、聞き取れる力の養成を目指す。中国語の基礎語彙、日常用語を覚え、基本語順パターン、基礎的な言い回し、簡単な会話など中国語のエッセンスを学習する。徹底的に発音練習をこなし、実用的なすぐに役立つ中国語会話を確実に身につけることである。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方がることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。 ◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 正しい発音で中国語会話ができる。 2. 状況に応じた中国語を自ら話すことができる。 3. 習った語彙、語順、語法を理解できる。 4. 中国人と簡単なコミュニケーションができる。

授業の概要	本授業では、中国語Ⅰに引き続き、中国語の基本である発音と簡単な会話を中心に学修する。具体的には、演習形式により、「聞く・話す・読む・書く」のバランスの取れた練習を行いながら、教科書に沿った形で単語や表現、文法を学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末試験、小テスト、授業への取組姿勢を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
期末試験（筆記）	50%	発音記号を理解し、基本の語彙、語順、文法を習得しているのかで評価	
期末試験（口頭）	20%	中国語で聞かれた質問に、中国語で正しく応答できるかどうかで評価	
小テスト	10%	書き取りや読み取りの小テストを随時実施し毎回成績の記録を残して評価	
授業への取組姿勢	20%	予習・復習・宿題の完成度及び授業中の発音練習に積極的に参加しているかで評価	
課題に対するフィードバックの方法	期末試験	模範解答により解説する。	
	小テスト	授業中に答え合わせ、もしくは先生から採点、登録後に返却する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考（ISBN等）
教科書 （テキスト）	中国語のおもてなし 入門編	相原茂 監修 本間由香利、蘇紅著	郁文堂	978-4-261-01883-7
参考書等	中日辞典 第三版	北京・商務印書館、 小学館	小学館	978-4095156040

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	第5課 お手伝いしましょうか 助動詞の「会」と「能」、文末の「了」、数量、前置詞の「給」	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
2	グループ会話 土産物店で店員と中国人客の通訳してみよう	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
3	第6課 ちょっと見てもいいですか 助動詞の「可以」、実現完了の「了」、ちょっと「一下」、金額と数字	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
4	グループ会話 買い物客にインタビューしてみよう（買ったお土産の種類や数量、金額について）	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
5	第7課 旅行に来たのですか 前置詞の「在」、時量を表す言葉、「是・・・的」構文、予定や、するつもり「打算」、過去の経験を表す「过」	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
6	グループ会話 中国人客に土産や観光の目的や、滞在予定について会話してみよう	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
7	第8課 もちろん登ってみたいです 結果補語、方向補語、前置詞の「离」、動詞の重ね型	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
8	グループ会話 浅草を観光した中国人客に次の予定についての会話	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
9	第9課 道に迷いましたか 動作の進行形、前置詞の「从」、副詞の「就」、自然現象	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
10	グループ会話 道に迷っていきそうな観光客との会話	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
11	第10課 まず券売機で食券を買います 先ず～その後～「先～然后～」、「把」構文、方位詞、存現文、二重目的語構文	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
12	グループ会話 食券式セルフサービスのお店での会話	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
13	第11課 ビールを一本注文しました 持続を表す「着」、可能補語、使役文、主述述語文、比較文	講義	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を行う。	1.0時間 3.0時間
14	グループ会話 食事をしながら、食べられない食べ物や日本ビールの味について会話	演習	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：付録復習シートを元に暗誦する。	1.0時間 3.0時間
15	まとめ 第5課～第11課の復習、質疑応答	講義 口頭試験	予習：教科書の該当頁を読んでおく。 復習：第5課～第11課を復習する。	2.0時間 2.0時間

受講上の注意点	全員参加型の授業をしますので、積極的に参加してください。語学の勉強には暗誦がお勧めです。予習復習にCDを十分に活用して、聴く、復唱、暗誦という順に、一定な時間を確保して学習するように。授業中には関係のない私語や、遅刻、途中退室は認めません。	備 考
連絡先（質問等）	授業実施日に随時質問に応じる。試験前に質疑応答の時間を設ける。	
受講生へのメッセージ	現在世界中で、英語の次に学ばれているのが中国語です。これからの日中関係はどうか、文化、経済、貿易、観光の面での交流は絶えることなく、影響し合う仲なので、皆さんの将来のために、ぜひ中国語を身につけておきましょう。	

授業科目名	日本語の表現	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	武内 恵美子	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	演習

キーワード	日本語表現、文章作成、読解力
授業の目的	文章の内容を正確に読み取り、それに対する自分の意見を、正しい日本語表現とわかりやすい文章で書くことができる能力を養う。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP3（コミュニケーション力・協働する力）</p> <p>多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力）</p> <p>研究活動やプレゼンテーション等に必要水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p>
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	<p>1. 提示された課題や内容を理解し、適切な構成で文章を作成することができる。</p> <p>2. 正しい日本語表現で説得力のある文章を作成することができる。</p>

授業の概要	日常語、口語で使われる表現と、文章で使われる表現は異なる。本科目では、文章で使われる表現や明確な文章を書くポイントを学び、公的な場面などで必要な文章表現の基礎を学ぶ。また、論理的、説得的な文章を書くための訓練をし、レポートや論文等の基礎となる短い論説文を書くことができるようになることを目的とする。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	授業内試験、学期末試験を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	70 %	提示された課題に即し、正しい日本語表現で文章を作成し、自分の意見を述べるかどうかで評価	
授業内試験	30 %	提示された文章の構造を理解し、著者の意見を正確に読み取り、要約することができるか。	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。	
	授業内試験	翌週にポイントを解説する。	

教科書・参考書、教材等				
都度プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし			
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	文章の種類、作文と小論文の違い、約束事、段落構成、要約作成 1	講義	予習：特になし。 復習：学習したことを振り返る。	0.0 時間 2.5 時間
2	文章表現の基本、文章の表記の約束事、句読点の打ち方、要約作成 2	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間
3	文体、文章表現のコツ 1(助詞・二重否定)、要約作成 3	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間
4	文章表現のコツ 2 (主語・述語・語順・段落・修飾語等)、要約作成 4	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間
5	要約作成時の注意、自分の意見のまとめ方 要約+自分の意見 1	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間
6	自分の意見を述べる方法、要約+自分の意見 2	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間
7	医療系小論文の書き方 1 医療系小論文要約	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間
8	医療系小論文の書き方 2 医療系小論文要約 2	演習	予習：要約の復習。 復習：要約作成および指導されたことを振り返る。	1.0 時間 2.5 時間

		備 考
受講上の 注意点	課題に真摯に取り組みましょう	
連絡先 (質問等)	emitake@kcuu.ac.jp	
受講生への メッセージ	社会に出ると正しい日本語を習う機会 はほとんどありません。今のうちに学 習しておきましょう。	

授業科目名	哲学入門	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	桑原 英之	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	言葉、人間、身体、生死、弔い
授業の目的	社会や人間のあり方を考える上で不可欠な事象や概念について自ら考え理解し表現することができるようになる。

ディプロマポリシーとの関係 ◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。 ▲DP5（様々なリテラシーと論理的思考力）
到達目標	1. 哲学的主題について自分の考えを持ち表現することができる。 2. 社会で起きている出来事を幅広い視点から捉え理解することができる。

授業の概要	哲学とは、人間が人生の節目で立ち止まって考えずにはいられないことについて思考する学問である。本講義はその中から「言葉」「心と身体」「生と死」「死者の弔い」「生きる意味」という5つの主題に注目する。具体的には、人は言葉抜きに思考することは出来ないが言葉は人間にとっていかなる意義と役割をもつのか。人の身体が機械化・道具化してくことをどう考えるか。死とは何なのか。人は死者を必ず悼むが死者を弔うことは人間社会にどういう意義があるのか。そして偶然に生まれた私たちが「生きている意味」とは何なのか。これら哲学的主題について、世界の哲学者や思想家の抽象的な考えを参照しつつ、現代社会の問題や課題、医療の場面にも関連付けながら具体的に理解を深め、一人一人が自らの哲学的思考の土台を築き上げることを目指す。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	60%	講義内容を理解し到達目標に達しているかどうかで評価する。	
課題レポート	40%	課題や問題へ積極的取り組みがなされ能力向上に努めているか否かで評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。	
	課題レポート	講義内でポイントを解説する。	

教科書・参考書、教材等				
プリントを適宜配布して説明を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	無し			
参考書等	講義内で適宜指示する			



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	イントロダクション：哲学の語源・始まり及び授業全体の概要を説明する。	講義	予習：哲学の意味を調べること。 復習：哲学の語源等を復習すること。	2.0時間 2.0時間
2	言葉の本質について：思考には言葉が不可欠だがその本質について考察する。	講義	予習：言葉の役割について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
3	言葉とコミュニケーション：コミュニケーション手段として言葉を考察する。	講義	予習：意思疎通について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
4	動物と人間の違い：両者を分ける特徴とその意義について考察する。	講義	予習：動物機械論について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
5	動物と人間は平等か？：現代における動物と人間の関係性について考察する。	講義	予習：動物の権利思想を調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
6	心と身体：心と身体を分けて考える二元論的思考の意義について考察する。	講義	予習：二元論について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
7	身体の道具化：現代における身体の道具化について医療を例に考える	講義	予習：配偶子取引について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
8	心なき身体、身体なき心？：心と身体のあり方の未来を考える。	講義	予習：臓器取引について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
9	死について：人間が死や死後をどのように考えてきたか多角的に考察する。	講義	予習：死について考察すること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
10	死者について：死者や遺体について考察する。	講義	予習：死者について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
11	吊いについて：死者の吊いにはどのような意義があるか考察する。	講義	予習：吊いの意義について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
12	意味について：人間は意味を求めるがその意義について考察する。	講義	予習：意味について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
13	生きる意味について：生きることにどういいう意味があるのか考察する。	講義	予習：生きる意味について考えること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
14	生の否定：反出生主義や優生思想について批判的に考察する。	講義	予習：反出生主義について調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
15	まとめと振り返り：講義全体を振り返り改めて哲学することの意義を考察する。	講義	予習：哲学の意義を考察すること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間

		備考
受講上の注意点	課題への積極的取り組みが求められる。	
連絡先（質問等）	講義時間前後に講義室または講師控室にて質問を受ける。	
受講生へのメッセージ	正解のない問題を自ら考えることの楽しみと知的好奇心を養ってもらいたい。	

授業科目名	クリティカル・シンキング	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	桑原 英之	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	演習

キーワード	批判的思考、論理的思考、推論、理由、内省的思考
授業の目的	学問の基礎として不可欠であるとともに現場における課題解決への応用力を高める批判的思考について、その意義を理解するとともに自ら実践できるようになる。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p> <p>◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目</p>
到達目標	<p>1. 自分の思考の枠組みを批判的に捉え見直すことができる。</p> <p>2. 論理的に思考し課題解決につなげることができる。</p>

授業の概要	<p>「クリティカル・シンキング（批判的思考）」とは、「証拠に基づく論理的で偏りのない思考、内省的思考（リフレクション）、問題解決や判断を支えるジェネリック（汎用的）スキル」とされる。批判的志向は、良い思考をおこなうため、他者および自分に対して広く使われるもので、話を聞く・文章を読むといった情報のインプットに加え、自分の考えをまとめる・話す・書くなど情報のアウトプットにおいても働く能力であり、哲学に限らず、あらゆる学問において、またビジネスをはじめ生活のあらゆる場面において、論理的思考力は重要である。本授業では、批判的志向の「明確化」「推論の土台の検討」「推論」「行動決定」というプロセスについて、様々な題材による実践的なトレーニングを取り入れながらクリティカル・シンキングの能力を身に付けていく。</p>
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	60%	講義内容を理解し到達目標に達しているかどうかで評価する。	
課題レポート	40%	課題や問題へ積極的取り組みがなされ能力向上に努めているか否かで評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。	
	課題レポート	講義内でポイントを解説する。	

教科書・参考書、教材等				
プリントを適宜配布して説明を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし			
参考書等	講義内で適宜指示する			

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	批判的思考及び論理的思考の概要	講義	予習：CTについて調べること。 復習：講義内容を整理すること。	2.0時間 2.0時間
2	論理的表現力： 論理の規則	講義	予習：論理の規則について調べること。 復習：論理学の問題を解くこと。	2.0時間 2.0時間
3	論理的表現の規則 2： 論理的関係の明確化	演習	予習：接続表現の役割を調べること 復習：接続表現の問題を解くこと。	2.0時間 2.0時間
4	正しく質問すること： 問いの明確化	演習	予習：良い質問について調べること 復習：質問の問題を解くこと	2.0時間 2.0時間
5	誤謬推論と批判的思考 適切な推論の土台と理由付け	演習	予習：誤謬推論について調べること 復習：誤謬推論の問題を解くこと	2.0時間 2.0時間
6	アサンプション 暗黙の認識の枠組みの明確化	演習	予習：暗黙の前提について調べること。 復習：暗黙の前提の問題を解くこと。	2.0時間 2.0時間
7	演繹的推論と対偶の活用	演習	予習：逆裏対偶について調べること 復習：逆裏対偶の問題を解くこと。	2.0時間 2.0時間
8	三段論法	演習	予習：三段論法について調べること。 復習：三段論法の問題を解くこと。	2.0時間 2.0時間

受講上の 注意点	課題への積極的取り組みが求められる。	備 考
連絡先 (質問等)	講義時間前後に講義室または講師控室にて質問を受ける。	
受講生への メッセージ	批判的思考力や論理的思考力は学問においても仕事においても求められる基礎的能力である。講義を通じて自らしっかり考える力を養ってもらいたい。	

授業科目名	情報処理演習 I	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	木田 奈々美	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	演習

キーワード	Word、Excel、PowerPoint、情報モラル、ビジネススキル
授業の目的	Society5.0 の下でますます重要性を増すパソコンスキル修得の第一歩として、大学における学修・研究や将来の社会人としての活動において必要となるビジネスソフトを中心としたスキルの修得・向上を図る。また、その技能の活用によって、文書による自分の主張やアイデア等の表現方法の基礎を修得する。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP 5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。 ▲DP 6（専門分野の基礎となる分野の知識等）
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. Windows PC の基本操作ができる。 2. Word による基本的な文書作成、Excel による表とグラフの作成ができる。 3. PowerPoint により基本的なプレゼンテーション資料を作成できる。 4. ビジネスソフトの活用により、自分の主張やアイデア等を文書で表現できる。 5. 現代社会における「情報」の課題や倫理的問題について説明できる。

授業の概要	本授業では、大学における学修・研究や将来の社会人としての活動において必要となるビジネスソフトを中心とする情報処理スキルの習得・向上を図るとともに、ビジネスソフトを活用した書類作成の技能向上を図る。具体的には、演習形式により、Windows OS の基本操作、インターネットによる情報収集、電子メールによるコミュニケーション、文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション資料作成のためのソフトウェアの利用方法を習得する。また、示された範囲の中で学生が自らテーマを定め、これらの技能を活用した文書作成を行う。さらに、現代社会における「情報」に関する現状・課題や倫理的問題についても考える。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	中間課題・期末課題と小課題を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
中間及び期末試験	70 %	授業内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価	
小課題	30 %	毎回の小課題における授業内容の理解度・技能修得度で評価	
課題に対するフィードバックの方法	中間及び期末試験	個別に評価コメントを付す。	
	小課題	提出後の授業時間内において総評を行う。	

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進めるが、一部プリントを配布して説明を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	情報リテラシー 総合編 Windows 10/Office 2019 対応 <改訂版>		FOM 出版	978-4-86510-417-2
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	オリエンテーション 各種のビジネス関係文書の作成 (イントロダクション)	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
2	Word(1) / 基本的な文書の作成①	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
3	Word(2) / 基本的な文書の作成②	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
4	Excel(1) / データの入力と表の作成	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
5	Excel(2) / グラフの作成	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
6	Word(3) / 図や表の挿入	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
7	Word(4) / 表現力を向上する機能	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
8	Excel(3) / 関数の活用 (中間課題テーマの提示)	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
9	総合演習 1 中間課題の総評	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
10	情報モラルと情報セキュリティ	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
11	PowerPoint(1) / プレゼンテーションの 作成とオブジェクトの挿入	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
12	PowerPoint(2) / プレゼンテーションの 構成変更と特殊効果	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
13	PowerPoint(3) / 他のアプリケーション のデータの利用	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
14	Excel(4) / データベースの操作	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
15	総合演習 2 (期末課題テーマの提示)	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間

		備 考
受講上の 注意点	教科書を持参すること。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習 方法や授業に関する質問・相談を受付 けます。	
受講生への メッセージ	高校までの PC への取り組みが学校に よって異なりますが、初歩から進めて いきますので積極的に参加しましょ う。	

授業科目名	情報処理演習 II	科目区分	基礎科目－思考と表現
担当教員名	田中 智之	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	演習

キーワード	Word、Excel、PowerPoint、データベース、ビジネススキル
授業の目的	Society5.0 の下でますます重要性を増すパソコンスキル修得の第一歩として、大学における学修・研究や将来の社会人としての活動において必要となるビジネスソフトを中心としたスキルの一層の向上を図る。また、その技能の活用によって、文書による自分の主張やアイデア等の表現方法の技能向上を図る。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要な水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。 ▲DP6（専門分野の基礎となる分野の知識等）
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. Wordにより応用的な文書を作成できる。 2. Excelにより応用的な表とグラフを作成できる。 3. PowerPointにより応用的なプレゼンテーション資料を作成できる。 4. Accessにより基本的なデータベースを構築できる。 5. ビジネスソフトの活用により、自分の主張やアイデア等を文書で表現できる。

授業の概要	本授業では、情報処理入門Iに引き続き、大学における学修・研究や将来の社会人としての活動において必要となるビジネスソフトを中心とする情報処理スキルの習得・向上を図るとともに、ビジネスソフトを活用した書類作成の技能向上を図る。前半は、情報処理入門Iで学習した内容を前提として、Word、Excel、PowerPointの応用機能を習得する。後半は、データベースの基本について学修するものとし、データベースの基本的な概念の学習と具体的なソフトウェアとしてMicrosoft Accessの基本操作を習得する。また、示された範囲の中で学生が自らテーマを定め、これらの技能を活用した数量的資料の作成を含む文書作成を行う。
履修条件 関連科目等	履修条件は特になし。 情報処理演習Iに続く内容となる。

成績評価方法	中間課題・期末課題と小課題を総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
成績評価の種類	評価割合	評価基準
中間及び期末試験	70%	授業内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価
小課題	30%	毎回の小課題における授業内容の理解度・技能修得度で評価
課題に対するフィードバックの方法	中間及び期末試験	個別に評価コメントを付す。
	小課題	提出後の授業時間内において総評を行う。

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進めるが、一部プリントを配布して説明を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	情報リテラシー 総合編 Windows 10/Office 2019 対応 <改訂版>		FOM 出版	978-4-86510-417-2
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	Word(5) / 便利な機能 Excel(5) / シートの活用, 書式の活用	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
2	Word(6) / 長文の編集	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
3	Word(7) / 文章の校閲	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
4	Word(8) / ビジネスで役立つ高度な機能	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
5	Excel(6) / 高度なグラフ	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
6	Excel(7) / マクロ, VBA①	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
7	Excel(8) / マクロ, VBA②	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
8	総合演習 1 (中間課題テーマの提示)	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
9	PowerPoint(4) / スライドのデザインの設定, プレゼンテーション機能 / 中間課題の総評	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
10	Access(1) / データベースの構築と設計	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
11	Access(2) / データベースの作成	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
12	Access(3) / テーブルの作成	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
13	Access(4) / リレーションシップの作成, クエリー作成	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
14	Access(5) / フォーム	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間
15	総合演習 2 (期末課題テーマの提示)	演習	授業中に指示する小課題の提出	1.0 時間

		備 考
受講上の 注意点	ブラインドタッチをあらかじめ習得しておくこと。授業時間中にできなかったことは自宅学習で補いましょう。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	この科目を習得することは卒業研究のみならず、卒業後も医療安全管理業務などに大いに役立ちますので頑張ってください。	

授業科目名	現代社会と保健・医療・福祉	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	廣瀬稔、山東勤弥、雨海照祥 (オムニバス)	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	医療事故、NST、風しん・麻しんなど感染症、再生医療、免疫療法、医師の働き方改革
授業の目的	現代の保健・医療・福祉が当面する様々な課題を取り上げ考察する。 もって、医療分野を様々な視点から考えるための土台を構築する。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP4 (教養や探究心) 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。 ◎DP6 (専門分野の基礎となる分野の知識等) 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	
到達目標	1. 授業で取り上げた課題について、その概要を説明できる。 2. 授業で取り上げた課題について、理由を含めて自分の考え方を説明できる。 3. 社会における諸問題について、医療との関連の可能性を考えることができる。

授業の概要	少子高齢化をはじめとする社会の変化の中で、医療・医学は大きく進歩を進めるとともに、医療及び保健・福祉を取り巻く環境や制度・政策は大きく変化し続けている。本授業では、現代の保健・医療・福祉が当面する様々な課題を取り上げ考察することにより、医療分野を様々な視点から考えるための土台を構築する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	50%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価。
課題レポート	50%	課題レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。
	課題レポート	提出後の授業時間内においてポイントを解説する。

教科書・参考書、教材等				
適宜プリントを配布して説明を行う。教科書は用いない。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	プリント配布			
参考書等				



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	医療の安全（医療事故、医療過誤） （廣瀬）	講義	予習：テーマに関する新聞等の記事を読む。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること。	1.0時間 4.0時間
2	NST（Nutrition Support Team）について（山東）	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること	1.0時間 4.0時間
3	生活習慣病と高齢化（山東）	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：授業で扱ったテーマを自分で調べ、自分なりの考えを考察する。	1.0時間 2.0時間
4	喫煙、飲酒、薬物依存について（山東）	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：授業で扱ったテーマを自分で調べ、自分なりの考えを考察する。	1.0時間 2.0時間
5	世界及び我が国を取り巻く感染症の問題（雨海）	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：授業で扱ったテーマを自分で調べ、自分なりの考えを考察する。	1.0時間 2.0時間
6	医師を取り巻く諸問題（雨海） ・医師の偏在や負担軽減問題などについて	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること	1.0時間 4.0時間
7	COVID-19 ワクチンと医療機器 ー血液透析と ECMO のケーススタディー（雨海）	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：授業で扱ったテーマを自分で調べ、自分なりの考えを考察する。	1.0時間 2.0時間
8	「医師の働き方改革」における臨床工学領域の変化と多職種連携（廣瀬）	講義	予習：医療に関する新聞等の記事を読む。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること	1.0時間 4.0時間

		備 考
受講上の 注意点	この授業は4人の教員によるオムニバス形式の授業です。	
連絡先 （質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ		

授業科目名	人間関係と家族	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	山本 桂子	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	自己理解、他者理解、コミュニケーション・スキル、家族の抱える問題
授業の目的	本授業の目的は、医療分野に携わる者が関わる人々やその家族との人間関係のあり方について学修することにある。良好な人間関係を形成するために必要なコミュニケーションのありかたを理解し、臨地における対象との良好な関係づくりの基盤をつくること、さらに社会の変化と家族の変容を踏まえて家族の諸問題についても理解を深めることをねらいとする。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP 2（人間性） 他者に対し思いやりをもって接することができるとともに、医療に携わる者として、いのちの尊厳を理解し、ふさわしい倫理観・責任感を有している。 ◎DP 4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。
◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	
到達目標	1. 人間関係に関わる基礎理論を理解する。 2. 体験学習を通して自他の理解を深める。 3. 体験学習を通して良好な人間関係のためのコミュニケーション技術を習得する。 4. コミュニケーションの視点から家族の諸問題について考え、意見を述べるができる。

授業の概要	本授業では、医療分野に携わる者が関わる人々やその家族との人間関係のあり方について学修する。具体的には、まず、人間関係に関わる基礎理論を理解し、体験的学習を通して自分と他者との間に生じる心の動きと行動を省察することによって自己理解を深める。さらに、良好な人間関係を形成するために必要なコミュニケーションのありかたを理解し、臨地における対象との良好な関係づくりの基盤を学ぶ。また、人間にとっての家族の意味を問い直しながら、ライフサイクルの視点から家族の役割と構造、家族の機能について学び、家族の概念の時代による変化と現代家族の諸問題についてコミュニケーションの視点から考える。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験、小テスト、授業中の取組姿勢を総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	50%	到達目標を元に講義内容を理解しどれだけ自分のものにできているかで評価
小テスト	20%	2回の小テストにより理解度を評価
授業中の取組姿勢	30%	ディスカッションへの参加や発表、コメントの内容を評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	期末試験は評価結果の講評のみで、模範解答は行わない。
	小テスト	授業内で解答解説を行う。
	授業中の取組姿勢	コメントされた内容については全体へのフィードバックを行う。

教科書・参考書、教材等				
テキストを使用するが、必要に応じて資料を配付する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 (第3版)	石川ひろの・奥原剛他	医学書院	978-4-260-03170-7
参考書等	事例で学ぶ医療コミュニケーション・スキル	マーガレット・ローイド /ロバート・ボア	西村書店	978-4-89013-302-4

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	社会的存在としての人間	講義	予習：これまでの人間関係を振り返る。 復習：配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
2	対人関係と社会的役割	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
3	自己理解① 自己をふりかえる	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
4	自己理解② 自己を見つめる	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
5	問題解決と意思決定	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
6	対人コミュニケーション① 言語的コミュニケーション	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
7	対人コミュニケーション② 非言語的コミュニケーション	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
8	人間関係のための技法① コーチング理論と応用	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
9	人間関係のための技法② アサーションの実践	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
10	保健医療チームの人間関係① チームワークとチームエラーの予防	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
11	保健医療チームの人間関係② リーダーシップ	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
12	変化する家族の機能と役割	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
13	現代社会における家族の抱える問題	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
14	医療従事者が関わる家族の抱える問題	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
15	患者・家族を支える人間関係	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 3.0 時間

受講上の 注意点	基本的には講義であるが、テーマによっては演習も多く取り入れるので、積極的に取り組むこと。また、主体的に考え関心と意欲をもって授業に参加すること。	備考
連絡先 (質問等)	原則として授業前後 15 分間に質問等を受付ける。	
受講生への メッセージ	社会生活を営む上で、人間関係は常に存在する。特に医療の分野を志す者には、コミュニケーション・スキルの高さが求められる。この授業を通して、自己の理解、他者への関心と支援についての新たな視点を見つけてほしい。	

授業科目名	心理学入門	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	石松 一真	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	こころ、認知、行動、情報処理、ヒューマンエラー
授業の目的	人間のこころを理解するためには多角的なアプローチが必要となる。本授業では、我々の認知・行動の基盤となる人間の情報処理に焦点を当て、こころの基本的な仕組みと働きについて理解するとともに、こころを科学的な方法でとらえるために必要となるものの見方や考え方を身につける。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP3 (コミュニケーション力・協働する力) 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。 ◎DP4 (教養や探究心) 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。
◎=主な関連項目、▲=副次的関連項目	
到達目標	1. 心理学はどのような学問であり、社会の中でどのように活かされているかを概説できる。 2. 人間の認知・行動の仕組みや特性について説明できる。 3. 習得した知識や方法論を実際に活用できる。 4. 論理的に考え、表現することができる。

授業の概要	心理学には、心の問題を科学的に解明しようとする基礎的な側面と、心理学の知見を用いて実生活に活用しようとする応用的側面とがある。また、研究対象や方法によって実験心理学、臨床心理学等のさまざまな領域に分類される。この授業では、心理学全般の基本的知見と理論とを概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を得ることを目的とする。心理学とはどのような学問であり、また人の心の働きを理解しようとするときに、これまでどのような方法によって研究が行われてきたのかについて解説する。具体的には、知覚、記憶、注意、学習、思考などのさまざまな領域における研究知見に触れることによって、人の心の働きについてこれまでに何が分かっており、何が未解明であるのかを考察していく。授業は、原則、パワーポイントによるプレゼン形式で進める。また、講義内での多方向のディスカッションを通じて、論理的に「考える」力の育成にも努める。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポート、授業中の取組姿勢を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価	
課題レポート	25%	1回の課題レポートで評価	
授業中の取組姿勢	5%	授業の最後に提出したコメントシートの内容で評価	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。	
	課題レポート	提出後の授業時間内においてポイントを解説する。	
	授業中の取組姿勢	授業中に適宜フィードバックする。	

教科書・参考書、教材等				
特定の教科書は使用しない。毎回講義スライドの抜粋版を資料として事前配布する。参考書は適宜紹介する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	使用しない。			
参考書等	心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)	無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治	有斐閣	978-4641053861
	ヒルガードの心理学 第16版	内田一成(監訳)	金剛出版	978-4772414388
	基礎から学べる医療現場で役立つ心理学	大川一郎, 土田宣明, 高木美保(編著)	ミネルヴァ書房	978-4623070664

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	心理学とは	演習	予習：心理学とは何かを自分なりに考える。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
2	感覚・知覚	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
3	視覚認知	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
4	注意	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
5	記憶	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
6	学習	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
7	思考	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：授業内容の復習とともに、課題レポートを課すので期限までに提出すること。	1.0時間 8.0時間
8	感情・情動	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
9	性格	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
10	発達	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
11	社会的認知	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
12	人間関係	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
13	集団・組織	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 2.5時間
14	ヒューマンエラー	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 3.0時間
15	人間の認知・行動と安全	演習	予習：事前配布された資料を読んでおく。 復習：配布資料や参考書等を活用し、授業内容の復習を行い、理解の定着に努める。	1.0時間 4.0時間

		備考
受講上の注意	授業への積極的な参加を期待しています。	
連絡先（質問等）	メール: k-ishimatsu@ghsj.ac.jp	
受講生へのメッセージ	人間の認知・行動の仕組みや特性について学び、習得した知識や方法論を職場や日常場面での問題解決などに活用してみてください。	

授業科目名	教育学概論	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	山本 桂子	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	学校教育、家庭教育、社会教育、生涯学習
授業の目的	教育を従来の「学校教育」や「子どもへの教育」に限定して考えるのではなく、家庭教育や社会教育、成人教育などを含めた広い視野で発想を拡大し、生涯学習の理念と哲学から人の成長や教育の本質を考えることができる。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP4（教養や探究心）  広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。
到達目標	1. 教育学の思想と理論の概要について理解する。 2. 「学校教育」や「子どもへの教育」における問題について説明できる。 3. 生涯学習時代を生きる人々の学びの支援について自身の考えを述べることができる。

授業の概要	いじめ、虐待、子どもの貧困と学習機会など、「学校教育」や「子どもへの教育」においては多くの社会問題が存在している。本講義においては、従来の「学校教育」や「子どもへの教育」という教育についての狭い発想を拡大し、人の成長とは何か、人が生きるとは何か、学びとは何かなど、生涯学習の理念と哲学を通して教育の本質を考える。具体的には、教育学の思想と理論の概要を学び、従来の「学校教育」や「子どもへの教育」における問題についての理解を深める。さらに、生涯学習時代における家庭教育、学校教育、社会教育の在り方や、生涯学習時代を生きる人々の学びをいかに支援できるかについて考える。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験、小テスト、授業中の取組姿勢を総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	60%	到達目標を元に講義内容を理解しどれだけ自分のものになっていくかで評価
小テスト	30%	2回の小テストにより理解度を評価
授業中の取組姿勢	10%	授業中の発表やコメントの内容を評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	期末試験は評価結果の講評のみで、模範解答は行わない。
	小テスト	授業内で解答解説を行う。
	授業中の取組姿勢	コメントされた内容については全体へのフィードバックを行う。

教科書・参考書、教材等				
テキストを使用するが、必要に応じて資料を配付する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	成長と変容の生涯学習	西岡正子	ミネルヴァ 書房	978-4-623-07161-6
参考書等	教育学をつかむ	木村元・小玉重夫他	有斐閣	978-4-641-17711-6

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	教育学の歴史	講義	予習：学びとは何かを考える 復習：配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
2	教育方法の発達	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
3	教育の原理	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
4	学習のスタイル	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
5	学習方法の実際	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
6	生涯教育の理念	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
7	TO BE の生き方と学習社会	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
8	発達課題と生涯学習	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
9	生涯学習時代の家庭教育	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
10	社会問題と家庭教育支援	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
11	成人の教育	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
12	高齢期の学習	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
13	生涯学習の方法	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
14	意識変容ための学び	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 2.5 時間
15	教育の課題と授業のまとめ	講義	予習：テキストの関連個所を読む。 復習：テキストの関連個所と配付資料を再度学習する。	1.0 時間 3.0 時間

		備 考
受講上の注意点	講義形式で行うが、演習形式も取り入れていくので、関心と意欲も持って、主体的に意見を述べられるように授業に参加すること。	
連絡先（質問等）	原則として授業前後 15 分間に質問等を受付けます。	
受講生へのメッセージ	学びは学校教育のみで終了するものではなく、職業についても生涯学び続ける姿勢が必要であることの意味を、一緒に考えていきましょう。	

授業科目名	ボランティア論	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	藤本 真由	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	ボランティア、市民活動、NPO、CSR、ソーシャルビジネス
授業の目的	「ボランティア」の奥深さを正しく理解し、参加への関心を高める。また、専門職を目指す立場としてNPOやCSRといった情報も持ち合わせ、社会資源として活用できる人材育成を目指す。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。</p> <p>◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア情報を自分で収集することができる。</li> <li>2. ボランティアには様々な分野や活動スタイルがあることを説明できる。</li> <li>3. 関心を持ったボランティア活動に参加する際の留意点を意識し、手順を実行できる。</li> <li>4. 個人活動のみならず、団体や組織としての取り組みについても説明できる。</li> </ol>

授業の概要	<p>近年は、大規模な自然災害に伴ってボランティアに対する関心も高まり、多くの人々がボランティア活動に参加するようになってきている。ボランティアは、災害復興にとどまらず、福祉、医療、教育、まちづくり、環境、国際協力など様々な分野にわたっている。本授業では、講義形式により、ボランティアの歴史や、日本及び世界の現状などについて概観した上で、災害復興、福祉、まちづくりの分野におけるボランティアの実例を紹介する。その際、ボランティアの受入れ先、コーディネートする団体等、実際の参加者など、ボランティア活動に携わる様々な立場からの声を取り上げ、ボランティア活動の現場を多面的に理解することにつなげるとともに、受講生が意見交換しながらボランティアの実践における方法論や課題等について自ら考察し理解を深めていくことを目指す。</p> <p>授業内容は、講義形式中心に、個人ワークや意見発表、参加型の機会を含む。</p>
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	授業内ワーク課題と取組姿勢、課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
授業内ワーク課題	50%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価	
授業中の取組姿勢	20%	授業態度や参加姿勢、意欲を評価	
課題レポート	30%	1回の課題レポートで評価	
課題に対するフィードバックの方法	授業内ワーク課題	授業内で解説、意見発表で共有、回収採点後に返却	

教科書・参考書、教材等				
使用しない				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)				
参考書等				



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	「ボランティア」とは	講義	予習：ボランティアとは何かを考える。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
2	ボランティアの歴史(日本・世界)	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
3	ボランティアの種類や参加方法	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
4	NPOとは	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
5	ソーシャルビジネスとCSR	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
6	イベントや各種事例紹介	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
7	中間支援とコーディネーター	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間
8	クロスロード®体験と今後に向けて	講義	予習：事前配布の資料を読んでおく。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努める。	1.0 時間 2.5 時間

		備 考
受講上の 注意点		
連絡先 (質問等)	授業前後で 20 分間オフィスアワー、 学習支援センターにて質問受付も可能	
受講生への メッセージ	自分にできることから社会とつながる！ 世界が広がる！ その第一歩を、一緒に踏み出しましょう。	

授業科目名	健康・スポーツ実践 I	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	織田 修輔・佐藤 曜子	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	実習

キーワード	健康運動、体力測定、体力テスト、ニュースポーツ、ストレッチング、生涯スポーツ
授業の目的	この授業では、自己の健康・体力についての理解を深め、それらを生涯にわたって活用できるようにする。卓球や各種ニュースポーツなどの生涯スポーツを実践できるようにする。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方があることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。 ◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 自分の体力を把握し説明できる。 2. 身体のメンテナンス方法を理解し実践できる。 3. スポーツのルールを理解し実践できる。

授業の概要	この授業では、運動やスポーツを通して自己の健康・体力についての理解を深め、それらを向上させるために必要なスキルを学修する。授業においてはスポーツの特性、ルールについて学習し、基本的なスポーツ技術の習得を行い、生涯にわたって積極的に身体運動活動を実施する態度を養う。体力測定やストレッチ、トレーニングなどを行いつつ、具体的な実践種目として卓球や各種ニュースポーツを取り上げる。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	レポートと授業中の取組姿勢を総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
授業中の取組姿勢	70%	実技・実習への参加を通して到達目標の達成度を評価	
レポート	30%	健康管理の観点からよりよい生活習慣について考察できているかを評価	
課題に対するフィードバックの方法	授業中の取組姿勢		
	レポート		

教科書・参考書、教材等				
身体チェック法をはじめ、必要に応じてプリントを配布して説明する。教科書は特になし。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし			
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	身体特性を知るための測定実習 (静的アライメントの特性を知る) 担当: 佐藤	実技	予習: 自分の姿勢の特徴を鏡などで確認しておく 復習: 姿勢の歪みを確認しておく	0.5時間 0.5時間
2	身体特性に応じたメンテナンス方法(自分の身体特性に応じたストレッチングを実践する) 担当: 佐藤	実技	予習: 自分の姿勢の特徴を鏡などで確認しておく 復習: ストレッチング法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
3	健康管理概論 (健康とは、休養・睡眠、栄養など) 担当: 佐藤	講義	予習: 健康について自分の考えをまとめておく 復習: 日常生活へ取り入れていく	0.5時間 0.5時間
4	健康管理概論 (健康とは、休養・睡眠、栄養など) 担当: 佐藤	講義	予習: 健康について自分の考えをまとめておく 復習: 日常生活へ取り入れていく	0.5時間 0.5時間
5	身体特性に応じたエクササイズ方法 (道具を使わずにできるエクササイズ) 担当: 佐藤	実技	予習: 自分の姿勢の特徴を思い出しておく 復習: 日常生活へ取り入れていく	0.5時間 0.5時間
6	身体特性に応じたエクササイズ方法 (簡単な道具を使ったエクササイズ)	実技	予習: 自分の姿勢の特徴を思い出しておく 復習: 日常生活へ取り入れていく	0.5時間 0.5時間
7	体力測定・体力テストの実践 (握力、長座体前屈、閉眼片足立ち、反復横跳びなど) 織田	実技	予習: 身体の調子を整えておく 復習: 体力測定の測定方法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
8	体力測定・体力テストの実践 (握力、長座体前屈、閉眼片足立ち、反復横跳びなど) 織田	実技	予習: 身体の調子を整えておく 復習: 体力測定の測定方法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
9	体力測定・体力テストの評価・活用方法 (日常生活への取り入れ) 担当: 織田	実技	予習: 測定結果を確認しておく 復習: 日常生活への取り入れていく	0.5時間 0.5時間
10	体力測定・体力テストの評価・活用方法 (日常生活への取り入れ) 担当: 織田	実技	予習: 測定結果を確認しておく 復習: 日常生活への取り入れ方をイメージする	0.5時間 0.5時間
11	卓球の実施 (基本技術練習) 担当: 佐藤	実技	予習: 卓球のルールを確認しておく 復習: ストレッチング法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
12	卓球の実施 (試合実践と審判法の習得) 担当: 佐藤	実技	予習: 卓球のルールを確認しておく 復習: ストレッチング法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
13	ニュースポーツの実践 (ベタンク) 担当: 織田	実技	予習: ベタンクのルールを確認しておく 復習: ストレッチング法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
14	ニュースポーツの実践 (ベタンク) 担当: 織田	実技	予習: ベタンクのルールを確認しておく 復習: ストレッチング法を確認しておく	0.5時間 0.5時間
15	総括・レポート作成 担当: 佐藤	実技	予習: 今まで学んだ内容を振り返っておく 復習: よりよい生活習慣へとつなげる	0.5時間 0.5時間

		備考
受講上の注意	スポーツを行いやすい服装で参加すること。大阪保健福祉専門学校3階の実習室は土足・外履き厳禁ですので、室内履きの体育シューズを用意してください。	
連絡先 (質問等)	授業の前後、または学習サポートセンターにて質問を受け付けます。	
受講生へのメッセージ	自分の身体の特徴、メンテナンス法を知り、スポーツに積極的に参加出来るようになるよう。	

授業科目名	社会学入門	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	吉田 秀和	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	社会的存在、役割演技、レイベリング、ジェンダー、マイノリティ、ハラスメント
授業の目的	社会学の基礎概念を学ぶことで、自己の視野を広げ、時代を見通す能力を修得する。さらに、基礎概念を個別事象に当てはめ社会学的視点からの実社会の理解を深めていく。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。 ▲DP1（態度・志向性） ▲DP3（コミュニケーション力・協働する力）
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 社会科学的な思考スタイルの特色を把握することができる。 2. 自分のアンテナの感度を高め、情報へのアクセス能力を高めることができる。 3. 会話力・共感力というコミュニケーション能力を深めることができる。 4. グローバリゼーションやダイバーシティという時代のキーワードを理解することができる。

授業の概要	本授業は、人間の社会および行動について科学的に考え、説明し、予測するための基本を学ぶことを目的とする。社会学の入門的諸問題について概観することとし、社会学の基礎的な概念と社会の基礎となる集団・組織の特質についての理解を深め、現代社会が直面する変動の諸相について考察する。前半は社会システム等を総論的に、後半は家族や地域等各論を中心として授業を進める。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	授業レポート、リアクションペーパー、学期末試験を総合的に評価し60点以上を合格とする。		
授業レポート	20%	テーマの区切りに理解度を確認する小テストを実施する。	
リアクションペーパー	20%	毎時提出のリアクションペーパーの内容より判断する。	
学期末試験	60%	講義で取り上げた社会学に関する理解度を筆記試験で確認する。	
課題に対するフィードバックの方法	授業レポート	実施後の授業時にコメントする。	
	授業中の取組姿勢	毎時の授業開始時に前回授業の質疑に対して応答する。	
	学期末試験	試験の解答によって返答する。	

教科書・参考書、教材等				
基礎的な分野は教科書を用いて授業を進める。 参考書となる文献は、テキストの単元別サマリー&文献に数多く紹介されている。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	社会学のエッセンス - 世の中のしくみを見ぬく - 新版補訂版	友枝敏雄・他	有斐閣 アルマ	ISBN 978-4-641-22098-0
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	二者関係 —意味と相互主観—	講義	予習：テキスト第1章 精読 復習：授業概要の確認と授業内容の復習	1時間 3時間
2	アイデンティティ —私・自己—	講義	予習：テキスト第2章 精読 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
3	スティグマ・レイバリング・ステレオタイプ	講義	予習：テキスト第3章 精読 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
4	ドラマトゥルギー —自己演出—	講義	予習：第3回講義時指示（資料配布） 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
5	正常と異常	講義	予習：テキスト第4章 精読 復習：授業内容の復習。	2時間 2時間
6	予言の自己成就と自己破壊	講義	予習：テキスト第5章 精読 復習：授業内容の復習。	2時間 2時間
7	ジェンダー	講義	予習：テキスト第7章 精読 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
8	家族集団 —集団としての特徴とその変容—	講義	予習：テキスト第8章 通読 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
9	親子関係の病理 —親役割と児童虐待—	講義	予習：第8回講義時指示（資料配布） 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
10	ライフサイクルとライフコース	講義	予習：テキスト第12章 通読 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
11	少子高齢化社会	講義	予習：第10回講義時指示（資料配布） 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
12	医療組織 —医師と患者関係の諸相—	講義	予習：第11回講義時指示（資料配布） 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
13	マジョリティ（多数）とマイノリティ（少数）	講義	予習：第12回講義時指示（資料配布） 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
14	ハラスメントの諸相 —受け取る側の論理—	講義	予習：第13回講義時指示（資料配布） 復習：授業内容の復習	2時間 2時間
15	グローバリゼーション、ダイバーシティを思考する	講義	予習：テキスト第15章 通読 復習：授業内容の復習	2時間 2時間

		備 考
受講上の注意点	受講生が講義に集中できるよう授業中の私語、席の移動や退出は厳禁（除：グループ・ディスカッション）。私語を現認した場合は退出を促す。	
連絡先（質問等）	受講生の「声」を聴くため「コミュニケーションカード」の提出を毎時求め、質疑に対する応答を次回授業時冒頭に行う（含：レビュー）。	
受講生へのメッセージ	講義を通じて「社会的思考」の修得と「ジェネリックスキル」の体得に努めることに期待する。	

授業科目名	経済学入門	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	村上 薫	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	ミクロ経済学、マクロ経済学、希少性、資源配分、市場、経済活動の担い手、需要と供給、インフレ・デフレ、GDP、経済成長、財政・金融政策、為替レート
授業の目的	私たちは多かれ少なかれ「経済」の枠組みの中で働き、生活しています。従って、「経済」の知識は生活に不可欠な知識と言えます。しかし、「経済」と聞くとよくわからないとか、難しいと感じられる方が多いと思いますが、本授業は経済学を専門としない学生のために経済の仕組みやインフレ・デフレそして円高など日本経済が直面している経済問題をやさしい言葉で解説し、経済学的なものの見方・考え方を身につけることを目的とする。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。 ▲DP1（態度・志向性）
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 経済学の基礎的概念を説明できる。 2. 需要・供給と価格の関係について説明できる。 3. 国全体の経済活動の規模を測る指標について説明できる。 4. 財政政策や金融政策の考え方、基本的手法と効果を説明できる。

授業の概要	本授業では現実の経済がどのように動いているかを理解するための基礎となる経済学を講義する。最初に経済学を学ぶ必要性を解説し、次に市場において価格が需要と供給の関係からどのように決まるかなどミクロ経済学的基本概念を図や例を用いて講義する。そして経済成長やインフレなど国家全体の経済を対象とするマクロ経済学を学ぶ。また日常生活で直面する経済問題を理解するためにさまざまな事例を取り入れて講義する。最後に貿易の利益や為替レートの変動の影響を講義する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	80%	講義内容を理解し、到達目標1～4に達しているかどうかで判断する。
課題レポート	20%	到達目標の1と3に達しているかどうかで判断する。
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答を通じて解説する。
	課題レポート	提出後の授業時間内でポイントを解説する。

教科書・参考書、教材等				
使用しない。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	使用しない			
参考書等	授業時間中に適宜紹介する。			

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	ガイダンス：授業内容と進め方。授業評価などの説明。なぜ経済学を学ぶ必要があるか。	講義	予習：経済学について調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
2	日本の経済発展の歴史および現在の経済状況と諸問題を概括する。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
3	経済をミクロ的に見ることから経済の仕組み、経済行動などを学ぶ（ミクロ経済学）。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
4	市場・市場経済そして経済活動の担い手（家計・企業・政府）とその役割について学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
5	需要と供給：完全競争市場、需要曲線・供給曲線のシフト・価格弾力性などについて学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
6	消費者余剰と生産者余剰とは何かを学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
7	ゲーム理論（囚人のジレンマ等）と経済はどんな関係があるか。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
8	マクロ経済学の二つの考え方、家計や企業の経済活動及び政府の役割を概括する。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
9	物価とは何か。よく使われる物価指数とは何を示すか。インフレ・デフレとはどういう現象か？我々にとってどんな影響があるかなどを学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
10	国内総生産（GDP）とは何か。名目 GDP と実質 GDP、GDP の三面等価の原則などについて学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
11	経済成長とはどういうこと？経済成長と技術革新の関係は？	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
12	財政政策・金融政策の考え方、基本的手法、その効果について学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
13	日本の貿易を国際収支表から学ぶ。貿易黒字、貿易赤字などの影響について学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
14	為替レートの変動が企業経営や我々の生活に与える影響について学ぶ。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間
15	本授業の内容を踏まえて、これからの日本経済の見通しについて考える。	講義	予習：テーマについて調べておくこと。 復習：講義内容をさらに深く調べ、理解を深めること。	2.0 時間 2.0 時間

		備 考
受講上の注意点	テキストは使用しないのでノートの準備は必須です。なお授業中の私語は厳禁です。	
連絡先（質問等）	授業終了時および学生サポートセンター経由でお願いします。	
受講生へのメッセージ	経済学と聞いて、あまり難しく考えないでください。日常生活でなにか役に立つ授業にしたいと考えています。常にテレビや新聞の経済に関するニュースや記事に関心を持ってください。	

授業科目名	経営学入門	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	狩俣 正雄	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	経営、企業、組織、戦略、トップ・マネジメント、情報
授業の目的	この授業では、組織や企業がその目的を効率的能率的に達成するための管理運営の基本原則や仕組みを習得することを目的とします。経営とは何か、企業とは何か、企業の目的は何か、企業は社会でどのような役割を果たしているか、成功している企業の特徴は何か、などについて理解できることを目的とする。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。
到達目標	1. 企業や組織の基本原則を学び、説明することができる。 2. 経営学の概念や理論を用いて、経営現象を説明することができる。 3. 企業や組織の実践問題に対して、学習内容を活用して創造的に解決することができる。

授業の概要	経営学は企業の行動を説明し予測する学問である。企業は経済市場で激しい競争を行っており、企業を取り巻く環境は急速に変化しているが、その企業がどのように行動するかはわれわれの社会生活に大きな影響を与え、また企業の成否は国や地域社会の経済に大きな影響を与える。企業は、人、物、金、情報などによって構成され、それらをどのように有機的に構成し運営していくかが企業経営では重要である。 本科目では、経営とは何か、企業とは何か、株式会社とは何か、企業の行動の基本的原理や基本的なメカニズムは何か、といった問題や企業の実際のケースを取り上げて説明し、経営戦略、経営組織、非営利組織（NPO）、人的資源管理、マーケティング、トップ・マネジメント、国際経営などの基本を理解できるようにする。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験とレポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかどうかで評価する。
レポート	30%	レポート課題の解答で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。
	レポート	レポート課題の解答により解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進める。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	経営学	後藤幸男、鳥辺晋司	税務経理協会	978-4419036782
参考書等	経営学総論	後藤幸男編	税務経理協会	978-4419006167



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	経営学の基礎的概念、企業の役割、企業行動の基本原則について学習する。	講義	予習：教科書の第1章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
2	伝統的理論、人間関係論、行動科学、意思決定論などについて学習する。	講義	予習：配布資料を読む。 復習：配布資料を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
3	個人企業、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社の会社形態について学習する。	講義	予習：教科書の第2章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
4	非営利組織（NPO）の存在理由、NPOの特徴、NPO法について学習する。	講義	予習：教科書の第3章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
5	中小企業の特徴、ベンチャービジネスについて学習する。	講義	予習：教科書の第4章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
6	トップ・マネジメントとコーポレート・ガバナンスについて学習する。	講義	予習：教科書の32-38ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
7	戦略の概念、競争優位性、事業戦略、全社戦略について学習する。	講義	予習：教科書の第6章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
8	組織の基本形態、職能部門制組織、事業部制組織などについて学習する。	講義	予習：教科書の第7章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
9	組織行動の概念、欲求、知覚、コンフリクトについて学習する。	講義	予習：教科書の第8章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
10	人事制度、労務管理、賃金体系、キャリア開発などについて学習する。	講義	予習：教科書の第9章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
11	マーケティングの概念、製品計画、価格政策、プロモーションについて学習する。	講義	予習：教科書の第10章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
12	製品の概念、製品ライフ・サイクル、新製品開発について学習する。	講義	予習：教科書の第11章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
13	生産方式、工程管理、在庫管理、品質管理について学習する。	講義	予習：教科書の第12章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
14	情報システム、情報処理技術、意思決定支援システム、e ビジネスについて学習する。	講義	予習：教科書の第15章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間
15	多国籍企業、グローバル企業、企業の国際化の課題について学習する。	講義	予習：教科書の第16章を読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5時間 2.5時間

		備考
受講上の注意点	教科書や配布された資料について予習、復習をすること。	
連絡先（質問等）	m-karimata@ghsj.ac.jp	
受講生へのメッセージ	企業を取り巻く環境が大きく変化する中で、従来の企業の役割だけではなく、企業と対極にあるNPOの役割、近年の企業の社会貢献の動きを学習することで、新しい経営のあり方を考えていく。	

授業科目名	法学入門	科目区分	基礎科目－人間と社会の理解
担当教員名	出嶋 陽介	必修・選択	選択
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	基本的人権、民事責任（損害賠償）、刑事責任（刑罰）、生存権、制定法の種類
授業の目的	日常生活の様々な場面で法律が関係することが多いにも関わらず、呼吸するのと同じくらい、我々はそれを滅多に意識しない。しかし、法律無くして、安全で平和な生活が成立することはあり得ないのであって、法律を知ることとは、社会生活上のスキルとして必須のことなのである。そこで、本科目では、とかく学理的かつ専門技術的な内容に陥りやすい法学を、いったん break down して、日常生活における法律学として捉えなおし、そこから理論的かつ専門的知識を修得できることを目的とする。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP 4（教養や探究心） 広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。 ▲DP 1（態度・志向性）
到達目標	1. 法学的なものの考え方や基本的な原則について理解できる。 2. 法以外の規範との対比、法の歴史などを踏まえて、法を説明できる。 3. 法の解釈の方法を説明できる。 4. 社会の諸相の中における法のアウトラインを説明できる。

授業の概要	本講義では、近代法形成の歴史、法の体系と分類、法の解釈と適用や司法のあり方などについて学んだ上で、日常生活やビジネスの現場を取り巻く様々な場面における法の関わりを具体的な事例を通して、法学的なものの考え方や基本的な原則、現代社会における法の問題点を理解する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験および小テスト（2回実施）を総合的に評価し、60点以上を合格点とする。	
学期末試験	60%	講義内容を理解し、到達目標を達成できているかどうかで評価する。
小テスト	40%	講義途中に実施し、講義内容を理解できているかどうかで評価する。
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。
	小テスト	模範答案を公開し、また答案の採点・返却を行う。

教科書・参考書、教材等				
教科書を主体に進行する。また、必要に応じて資料を配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	法学入門 (第6版補訂版)	末川博 (編)	有斐閣双書	978-4641112834
参考書等	講義途中で必要に応じて紹介する 予定			

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	テキスト第1講 法とは何か～社会と規範、法と国家、社会規範としての法と道徳～	講義	予習：社会における規範とは何かを理解する。 復習：法と道徳の関連性について、それぞれの役割を確認する。	2.0時間 2.0時間
2	テキスト第2講 法の発展～近代社会と近代法、夜警国家、法の体系～	講義	予習：法の歴史的発展について理解する。 復習：近代法以降、個人の自由を重視するための仕組みを法としたことを確認する。	2.0時間 2.0時間
3	テキスト第3講 法と裁判～民事裁判～、刑事裁判、司法権の独立～	講義	予習：刑事と民事の裁判制度を理解する。 復習：裁判制度に存在する原理及び原則を確認する。	2.0時間 2.0時間
4	テキスト第4講 裁判の基準～法源、制定法、判例法～	講義	予習：法の種類にどのようなものがあるかを理解する。 復習：制定法の種類と役割を確認する。	2.0時間 2.0時間
5	テキスト第6講 近代国家と憲法～近代憲法の原理、日本国憲法の成立と原則～	講義	予習：個人の人権を保障する憲法の歴史的過程を理解する。 復習：近代憲法の特徴と日本国憲法の原則を確認する。次週の小テスト対策。	2.0時間 2.0時間
6	テキスト第7講（小テスト実施） 権力分立～国民権と選挙権、国会中心主義、違憲立法審査権～	講義	予習：国会、内閣、裁判所（国家三権）の役割を理解する。 復習：国家三権の役割と機能を確認する。	2.0時間 2.0時間
7	テキスト第8講 基本的人権～基本的人権の発展、基本的人権と公共の福祉～	講義	予習：基本的人権の歴史を理解する。 復習：基本的人権の発展と公共の福祉による限界を確認する。	2.0時間 2.0時間
8	テキスト第8講 基本的人権～幸福追求権（新しい人権）、法の下での平等、表現の自由～	講義	予習：個人人権の内容を理解する。 復習：幸福追求権（新しい人権）、表現の自由が日常生活に果たす役割について確認する。	2.0時間 2.0時間
9	テキスト第9講 犯罪と刑罰～罪刑法定主義、犯罪の成立要件、刑罰に対する考え方～	講義	予習：犯罪が成立する要件を理解する。 復習：罪刑法定主義の役割を確認する。	2.0時間 2.0時間
10	テキスト第10講 家族～婚姻・離婚の成立要件、法律婚と事実婚、親子の法律関係、扶養と相続～	講義	予習：法律的な視点から婚姻、離婚、親子についての制度を理解する。 復習：法律的な観点から婚姻や離婚の成立要件、相続の方法について確認する。	2.0時間 2.0時間
11	テキスト第11講 契約の自由～契約自由の原則、契約の履行、契約の成立と効力～	講義	予習：契約がもつ社会的意義や契約自由の原則を理解する。 復習：契約の成立要件と契約違反に対するペナルティーを確認する。次週の小テスト対策	2.0時間 2.0時間
12	テキスト第13講（小テスト実施） 損害賠償～民事責任の成立、違法行為と過失責任、無過失責任～	講義	予習：他人の権利や利益を侵害した場合の賠償制度（不法行為）を理解する。 復習：不法行為の成立要件と無過失責任の導入について確認する。	2.0時間 2.0時間
13	テキスト第14講 生存と環境保護～公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開～	講義	予習：環境保全のための立法的規制の必要性を理解する。 復習：環境法制の概要と規制目的を確認する。	2.0時間 2.0時間
14	テキスト第15講 労働者の権利～労働法の出現、労働法の内容～	講義	予習：労働者の権利にどのようなものがあるかを理解する。 復習：労働基準法、労働契約法、労働組合法の概要を確認する。	2.0時間 2.0時間
15	テキスト第16講 生活の保障～資本主義社会と私的生活維持の責任、社会保障の権利～	講義	予習：個人の生存を法的に実現する意義を理解する。 復習：生存権の内容、生活保護法や障害者立法の概要を確認する。	2.0時間 2.0時間

		備 考
受講上の注意点	新聞やニュースで法律や裁判に関する報道があれば、努めて接してくれると、より法律を身近に感じてもらえるので、そうすることが望ましい。	
連絡先（質問等）	質問等は講義の前後、または講義中に関してはその講義内で受け付けるので、気兼ねなく声を掛けてほしい。	
受講生へのメッセージ	色々なことを知ることがよりよく生きる術となるゆえに、構えることなく、素直に学んでほしい。	

授業科目名	基礎生物学	科目区分	基礎科目－自然科学の基礎
担当教員名	木村 文隆	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	細胞と組織、タンパク質の機能、細胞分裂、遺伝法則、遺伝情報の発現過程、ウイルス、細菌、真核生物
授業の目的	医科学を学ぶ前に、その基礎となる生物学の概要を理解する。これにより、医科学への導入を容易にする。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 細胞と組織の構造を説明できる。 2. 細胞分裂の過程を説明できる。 3. 生体内のタンパク質の機能を説明できる。 4. 遺伝情報の発現過程を説明できる。

授業の概要	いうまでもなく、ヒトは生物の一員であるから、医学の基礎には生物学がある。本授業では、臨床工学分野の専門教育を学んでいくうえで必要な生物学の基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、細胞と組織の構造、生体内のタンパク質の機能、体細胞分裂と減数分裂の過程、メンデルの遺伝法則、遺伝情報の発現過程、ウイルス、細菌、真核生物の違いを理解する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末試験及びレポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
期末試験	80%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかを評価する。	
レポート	20%	レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価。	
課題に対するフィードバックの方法	期末試験	模範解答により解説する。	
	レポート	採点を行い、全体講評とともに返却する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行うが、随時プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	やさしい基礎生物学	南雲保 (編)	羊土社	978-4-7581-2020-3
参考書等	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学	和田勝	羊土社	978-4-7581-2065-4

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	細胞の構造	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
2	生命体を構成する物質	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
3	遺伝子の構造と機能	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
4	生体とエネルギー	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
5	細胞の分裂・情報伝達・がん化	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
6	生命体の受精と成長	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
7	生命体の反応と調節	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
8	生命科学技術と社会	講義	予習：これまでの授業を復習する。 復習：授業の復習を充分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間

受講上の 注意点	講義中は漫然と話を聞くのではなく、 ノートを取りながら聞いて下さい。講 義の後には十分な復習をして下さい。	備 考
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習 方法や授業に関する質問・相談を受付 けます。	
受講生への メッセージ	医科学の導入として生物学の要点を概 説します。	

授業科目名	基礎化学	科目区分	基礎科目－自然科学の基礎
担当教員名	山本 英樹	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	分子、化学反応、無機物質、有機化合物
授業の目的	化学の基礎として、原子の成り立ち、化学結合、化学反応、無機物質や有機化合物の種類や特性について概論的に理解し、基本事項を説明できるようになる。生体内で行われている化学反応の原理と無機物質や有機化合物の基本事項を理解し、以後の学修の基礎を形成する。

ディプロマポリシーとの関係  ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP 6（専門分野の知識となる分野の知識等）  専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 元素の種類や特徴を説明できる。 2. 化学結合や化学反応について説明できる。 3. 無機物質や有機化合物の種類や特性について説明できる。

授業の概要	本授業では、医療を分子レベルで理解する上で基盤となる化学の基礎知識を学ぶ。具体的には、元素の種類や特徴、化学結合、酸と塩基、酸化還元について学修する。また、無機物質や有機化合物の種類や構造、特徴など医療従事者に必須な化学の知識と考え方を学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	80%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価。
小テスト	20%	2回の小テストの課題への理解度・知識修得度で評価。
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	試験期間後に模範解答及び解説を配布する。
	小テスト	授業時間内において解説を行う。

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進める。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	一般化学 (四訂版)	長島弘三・富田功	裳華房	978-4-7853-3511-3
参考書等	アトキンス一般化学 (上)	ピーター・W. アトキンス 他	東京化学同人	978-4-8079-0854-7
	アトキンス一般化学 (下)	ピーター・W. アトキンス 他	東京化学同人	978-4-8079-0855-4

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	原子と分子	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
2	化学結合	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
3	物質の量と状態	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業と小テストの内容を復習し、理解の定着に努めること。	1.0 時間 4.0 時間
4	化学反応 1：酸・塩基と pH	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
5	化学反応 2：酸化と還元	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
6	無機物質	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業と小テストの内容を復習し、理解の定着に努めること。	1.0 時間 4.0 時間
7	有機化学 1：有機化合物の構造と分類	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
8	有機化学 2：高分子化合物	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間

		備 考
受講上の 注意点	教科書の指定箇所を予習すること。復習して理解を深めること。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	医療の専門知識を修得するために、化学の基礎知識を身につけてください。	

授業科目名	基礎物理学	科目区分	基礎科目－自然科学の基礎
担当教員名	小鏑 幸雄	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	力学、物性、波動、熱、エネルギー、静電場
授業の目的	物理学は自然界の現象、生活の中での機械、装置の作動原理やそれらの取り扱いを理解するために必須の学術分野である。様々な自然現象のとらえ方、それらを記述する方法の基礎を学び、医療工学を学ぶための基礎物理学を理解する。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 力の働きを理解し、説明できる。 2. 音、光の現象を理解し、説明できる。 3. 熱、エネルギー、仕事の原理を理解し、説明できる。 4. 物質の基本要素を理解し、説明できる。

授業の概要	本授業では、臨床工学分野の専門教育を学んでいくうえで必要な物理学の基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、力学基礎、流体力学の基礎、振動と波動、物性・熱、音波・光、物質の成り立ち、などについて学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60%以上を合格とする	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかどうかで評価。
課題レポート	30%	課題を与えて知識吸収度・理解度で評価。
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	解答例を提示する。
	課題レポート	レポートにフィードバックを記入して返却する。

教科書・参考書、教材等				
教科書にそって授業を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	医療専門職のための二度目の物理学入門	嶋津秀昭	学研メディカル秀潤社	978-4879623638
参考書等	物理学基礎 (第5版)	原康夫	学術図書出版社	978-4-7806-0525-9



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	物理学とは。単位系。 力の働き：力の基本法則	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
2	力の働き：重力、摩擦力、モーメント 力の作用と運動 物体の変形に関する力学	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
3	流体の力学：圧力、粘性、層流と乱流	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
4	振動と波動：エネルギー、振動、波	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
5	音波：ドップラー効果、うなり、共鳴	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
6	光：電磁波、波動性と粒子性	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
7	熱とエネルギー：熱力学	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間
8	物質の成り立ち：分子、原子、放射線	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業を復習し理解を確実にする。	1.0時間 2.5時間

受講上の 注意点	教えてもらうから、自ら学び、自ら考えるへ。 高校の数学、物理などの教科書は捨てないこと。	備 考
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	自然事象の基本的事項を学んでいきます。	

授業科目名	基礎数学	科目区分	基礎科目－自然科学の基礎
担当教員名	前田 純一郎	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	三角関数、指数・対数、複素数、微分、積分
授業の目的	これから臨床工学を学ぶうえで必須の数学の基礎を修得する。

ディプロマポリシーとの関係 ◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 三角関数のグラフが描ける。 2. 指数法則にしたがった計算ができる。 3. 複素数の四則計算、極形式表示ができる。 4. 初歩的な微分・積分の計算が即座にできる。

授業の概要	本授業では、臨床工学分野の専門教育を学んでいくうえで必要な数学の基礎的な知識を修得することを目的とする。具体的には、数と式の計算、関数とグラフ、三角関数、指数関数、対数関数、虚数と複素数、関数の極限、微分、積分などについて、学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末試験と毎回の宿題を総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかどうかで評価。
毎回の宿題	30%	レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価。
課題に対するフィードバックの方法	期末試験	模範解答により解説する。
	毎回の宿題	提出前は授業内で質問を受け付け、返却後は随時質問を受け付ける。

教科書・参考書、教材等				
プリントを配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし			
参考書等	高校数学の教科書・参考書			

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	式の変形・等式の変形 1次方程式、2次方程式 関数の定義域・値域とグラフ	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
2	三角関数の定義とよく使う値 三角関数のグラフと周期 加法定理と関連公式	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
3	指数法則と指数関数 逆関数 対数関数	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
4	複素数の定義と複素平面 複素数の四則計算 オイラーの公式と極形式表示	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
5	微分（導関数）の定義と意味 微分の基本公式 合成関数の微分	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
6	高次導関数 極値と増減表 マクローリン展開	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
7	不定積分の定義 置換積分法、部分積分法 部分分数分解	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間
8	定積分の定義と意味 定積分と不定積分の関係 置換積分法、部分積分法	講義	予習：高校教科書等を読み返しておく。 復習：課された宿題に取り組み、疑問点を明確にしておく。	1.0時間 2.5時間

		備考
受講上の 注意点	ルーズリーフまたはレポート用紙を準備して問題を解答してください。毎回提出してもらいます。 些細な疑問でも遠慮しないで質問するようにしてください。	
連絡先 (質問等)	授業の前・後、または学生サポートセンターにて質問を受付けます。	
受講生への メッセージ	大学受験のための数学ではありません。専門科目で使うための数学であることを意識して取り組んで下さい。	

授業科目名	統計学入門	科目区分	基礎科目－自然科学の基礎
担当教員名	山下 哲平	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	記述統計、推測統計学、正規分布、統計的仮説検定
授業の目的	「統計学」は、標本のバラツキを確率論的に考慮することにより未知の情報についての判断材料となり、どの研究者が計算しても同じ結果をもたらす客観性を備えることから、科学分野において必須の知識となっている。本講義では、統計学の基本的な考え方を学び、学術論文などに含まれる統計処理結果についてその意味を理解できること、自身も同様に計算を行えるようにすることを目的としている。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。 ◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	
到達目標	各種統計手法についてその数理を理解し、実際に統計処理を行うことができる。

授業の概要	本授業は、統計学の基本的な考え方を学び、学術論文などに含まれる統計処理結果についてその意味を理解できること、自身も同様に計算を行えるようにすることを目的とする。前半は、統計学の機能のうち「記述統計学」に焦点をあて、母集団から抽出された標本について、その特徴をつかむためのグラフによる表現や、標本分布の中心と広がりを示す記述統計量の計算方法について学ぶ。後半には、統計学の「推測統計学」において、特に重要となる「正規分布」の特性について理解し、標本から仮説を検証するための「統計的仮説検定」についてそれぞれの検定手法ごとに学んでいく。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験の結果により評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	100%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価。
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進める。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	新版 統計学の基礎 第2版	市原清志、佐藤正一、 山下哲平	日本教育研究 センター	978-4-89026-180-2
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	統計学とは	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
2	記述統計学	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
3	正規分布と中心極限定理	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
4	統計的仮説検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
5	母平均の検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
6	関連 2 群の差の検定① 1 標本 t 検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
7	関連 2 群の差の検定② 1 標本 Wilcoxon 検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
8	独立 2 群の差の検定① 2 標本 t 検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
9	独立 2 群の差の検定② Mann-Whitney U 検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
10	独立 2 群の差の検定③ F 検定と検定方法の利用条件	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
11	出現度数に関する検定① 二項検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
12	出現度数に関する検定② $\chi^2$ 適合度の検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
13	出現度数に関する検定③ $\chi^2$ 独立性の検定	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
14	2 変量の検定① 相関	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間
15	2 変量の検定② 回帰	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.5 時間 2.5 時間

受講上の注意点	数値計算を行いますので、平方根計算のできる 10 桁以上の電卓を持参してください。また、電卓の機能を十分に使えるようにしておいてください。	備 考
連絡先（質問等）	学生サポートセンターにて質問受付。	
受講生へのメッセージ	数学が得意でない方は、講義中に提示された数式や記号、演習についての復習を十分に行ってください。	

授業科目名	人体の構造と機能 I	科目区分	専門基礎科目－医学系基礎
担当教員名	山東 勤弥	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	ヒト、器官、構造、機能
授業の目的	基本的な生命維持に不可欠な器官の構造と機能について学修する。 解剖生理学は、臨床工学技士にとって基本的で重要な授業の一つであり、「ヒトの健康に関わる体の構造と機能」を理解することを目標とする。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP 6（専門分野の基礎となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 人体各部の器官や組織の名称を知り、位置関係や構造を理解している。 2. 医療関係者として人体各部の名称を正確に解剖学用語で表現できる。 3. 各臓器・器官系の基本的な生理機能について理解している。 4. 基礎的な生理機能測定方法の原理を理解している。

授業の概要	疾病を理解するためには人体の構造と機能について解剖学や生理学的な知識が必要である。本授業では、人体の構造と機能 II と併せ、人体を構成する細胞、組織、器官の構造や機能、運動・循環・呼吸・消化吸収・内分泌・代謝などの生命維持のための生理機能を内容とし、人体の諸器官が有機的にそれぞれの機能を果たすことで生命が維持されていることを学修する。具体的には、細胞、組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）の構造について学ぶとともに、組織が形成する器官の構造について各器官系（骨格系、筋系、循環系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系）に沿って系統的に学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	・学期末試験及び学習課題を総合的に評価し、60%以上を合格とする。 ・学期末試験を受けるためには、学習課題提出が必須である。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	80 %	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価	
学習課題	20 %	学習課題における課題への理解度・知識修得度で評価	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答を提示する。	
	学習課題	提出後の授業時間内においてポイントを解説する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書を用いて講義を行う。解剖用語定着のために用語書き込みのトレーニングノートを用いる。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	ぜんぶわかる 人体解剖図	坂井健雄ほか	成美堂出版	978-4-415-30619-3
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	総論 1 筋骨格系 pp.30～45	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
2	総論 2 循環器系 pp.46～61	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
3	総論 3 消化器系、呼吸器系、泌尿器系、 内分泌系 pp. 62～75	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
4	総論 4 神経系（自律神経以外） pp.76～87	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
5	総論 5 神経系（自律神経）、感覚器系 pp.88～95	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
6	各論 1 頭部・頸部 1 pp.98～109	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
7	各論 2 頭部・頸部 2 pp.110～121	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
8	各論 3 頭部・頸部 3 pp. 122～133	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
9	各論 4 頭部・頸部 4 pp.134～147	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
10	各論 5 胸部 1 pp.150～159	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
11	各論 6 胸部 2 pp. 160～169	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
12	各論 7 腹部・背部 1 pp.172～187	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
13	各論 8 腹部・背部 2 pp.188～199	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
14	各論 9 腹部・背部 3 pp.200～217	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間
15	各論 9 上肢・下肢 pp.220～235	講義	予習：該教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に理解の定着に努める。	1.5 時間 2.5 時間

受講上の 注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の理解を確認するために、小テストを行う。</li> <li>・迷惑行為には学則に沿って厳正に対応する。</li> </ul>	備 考
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	受け身ではなく、積極的な受講を望む。	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目区分	専門基礎科目－医学系基礎
担当教員名	木村 文隆	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	神経系、感覚生理、運動生理、呼吸機能、循環生理、腎機能
授業の目的	人体の構造と機能Ⅰで学習した、構造を元にどのような機能が備わっているか、そのメカニズム、生体に内在する法則性を学修し、生命現象の統合的理解を身につける。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP6（専門分野の基礎となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 神経の興奮、伝達のメカニズムを説明できる。 2. 各感覚機能、運動機能の仕組みを説明できる。 3. 呼吸機能を説明できる。 4. 心臓の興奮と血液の循環の仕組みを説明できる。

授業の概要	本授業では、人体の構造と機能Ⅰに引き続き、人体を構成する細胞、組織、器官の構造や機能、運動・循環・呼吸・消化吸収・内分泌・代謝などの生命維持のための生理機能を内容とし、人体の諸器官が有機的にそれぞれの機能を果たすことで生命が維持されていることを学修する。具体的には、細胞膜、細胞小器官や核の機能、筋組織について各種の筋細胞の収縮機構、神経組織について神経細胞の静止膜電位と活動電位、興奮の伝導と化学伝達のしくみなどを学ぶ。また、各器官系の機能について、特に心血管機能、呼吸機能、腎機能に重点を置きながら学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	中間試験と期末試験の2回の試験で到達度を評価し、60点以上を合格とする。	
成績評価の種類	評価割合	評価基準
中間試験	50%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかを評価
期末試験	50%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかを評価
課題に対するフィードバックの方法	中間試験	模範解答により解説する。
	期末試験	模範解答により解説する。

教科書・参考書、教材等				
配付資料を用いて講義を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)				
参考書等	系統看護学講座 人体の構造と機能(1) 解剖生理学	坂井健雄ほか	医学書院	978-4-260-03171-4



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	生理学の概要、コース紹介	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
2	静止膜電位、神経の興奮、伝導、シナプス伝達	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
3	感覚系の生理学 1 化学感覚、聴覚、平衡覚	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
4	感覚系の生理学 2 視覚、体性感覚	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
5	運動の生理学 1 運動発現機構 1 筋生理 脊髄、脳幹の機能	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
6	運動の生理学 2 運動発現機構 2 大脳皮質、基底核、小脳	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
7	中間まとめ	講義	予習：授業の前回分までをおさらいしておく。 復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間
8	循環器系の生理学 1 心臓の機能 心筋の収縮、心電図	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
9	循環系の生理学 2 末梢循環 循環の調節	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
10	体液の調節と尿の生成 1 腎機能とその調節 クリアランス	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
11	体液の調節と尿の生成 2 排尿のメカニズム 水の出納、脱水、酸塩基平衡	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
12	呼吸の生理学 1 呼吸運動、呼吸気量	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
13	呼吸の生理学 2 ガス交換とガスの運搬 呼吸運動の調節、呼吸の病態生理	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
14	体温とその調節 熱の出納 体温調節機構	講義	復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	4.0 時間
15	総まとめ	講義	予習：授業の前回分までをおさらいしておく。 復習：授業の復習を十分に行い理解の定着に努める。	1.0 時間 3.0 時間

		備 考
受講上の注意点	講義中は漫然と話を聞くのではなく、ノートを取りながら聞いて下さい。講義の後には十分な復習をして下さい。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	生理学は体の機能を理解するための基本であり、病態を理解するためにもとても大切です。しっかりと学んで下さい。	

授業科目名	基礎医学実習	科目区分	専門基礎科目－医学系基礎
担当教員名	木村 文隆、山本 英樹	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	実習

キーワード	興奮伝導、体温、皮膚感覚、生化学
授業の目的	人体の構造と機能の講義で学んだ知識を確認し、さらに理解を深めるため、生理学、生化学の実習を行う。生理学的には、筋と神経、体温、皮膚感覚等の主な機能について実習を行う。生化学実習では酵素活性測定やPCRを用いた遺伝子の増幅を行う

ディプロマポリシーとの関係 ◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。 ▲DP3（コミュニケーション力・協働する力）
到達目標	1. 神経の興奮伝導の仕組みを説明できる。 2. 体温の恒常性の仕組みを説明できる。 3. 2点弁別域について説明できる。 4. 酵素の活性測定法やPCRの原理を説明できる。

授業の概要	人体の構造と機能の講義で学んだ知識を確認し、さらに理解を深めるための実習である。生理学実習として、筋と神経、体温調節、皮膚感覚等の主な機能について、測定機器等を用いて基礎的な実習を行う。生化学実習として、酵素活性測定法とPCRによる遺伝子増幅を行う。
履修条件 関連科目等	履修条件は特になし。 関連科目は、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」である。

成績評価方法	課題レポートの評価と実習取組姿勢を総合評価し、60点以上を合格とする。	
課題レポート	50%	各回の実習課題を理解し、到達目標に達しているかどうかを評価。
実習の取組姿勢	50%	他学生と協力して取り組み、毎回の所定の実習を適切に行っているかどうかを評価。
課題に対するフィードバックの方法	課題レポート	採点後に個別に提供する。
	実習の取組姿勢	授業中に評価を行い、課題レポートの評価と併せて講評を提供。

教科書・参考書、教材等				
教科書は用いず、実習書を配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし (実習書配布)			
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1～3	体温の恒常性	実習	予習：実習書をよく読むこと。 復習：実習内容をおさらいすること。	0.5 時間 0.5 時間
4～6	皮膚感覚、2点弁別域計測	実習	予習：実習書をよく読むこと。 復習：実習内容をおさらいすること。	0.5 時間 0.5 時間
7～9	筋電図計測 腓腹筋からの記録	実習	予習：実習書をよく読むこと。 復習：実習内容をおさらいすること。	0.5 時間 0.5 時間
10～12	酵素の活性測定	実習	予習：実習書をよく読むこと。 復習：実習内容をおさらいすること。	0.5 時間 0.5 時間
13～15	PCRによる遺伝子増幅	実習	予習：実習書をよく読むこと。 復習：実習内容をおさらいすること。	0.5 時間 0.5 時間

		備 考
受講上の 注意点	実験に必要な基本知識の大半は授業で学んでいるので、該当する教科書と授業ノートを復習して実習に臨むようにしてください。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	生理学、生化学は身体の機能を理解するための基本であり、病態を理解するためにもとても大事です。しっかりと学んでください。	

授業科目名	医学概論	科目区分	専門基礎科目－医学系基礎
担当教員名	雨海 照祥	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	医学、エビデンス、ガイドライン、災害医療、超高齢社会
授業の目的	医学とはなにか、を必要な局面から解き明かすことを目指す。 医学の定義、医療における医学の意義、エビデンスに基づいたガイドラインの意義と限界、災害医療、超高齢社会などの観点から、医学を概説する。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP 6（専門分野の基礎となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。 ▲DP 2（人間性）
◎＝主な関連項目、▲＝副次的関連項目	
到達目標	次のことが説明できる ①医学の歴史、②医学研究、エビデンス、ガイドライン、③医の倫理、患者の権利、移植、再生医療、④わが国の医療の問題点、超高齢社会、⑤災害医療、チーム医療、⑥医療の情報化、遠隔医療、⑦医療安全、ヒヤリハットと法律、⑧医療経済

授業の概要	医療に従事する者としての基本的な知識と姿勢を持ち、その学びの基礎を形作るため、医学とは何かということを様々な観点から学ぶ。 具体的には、医療・医学の歴史、医の倫理、医療従事者の役割とチーム医療、医療の質の確保、医療安全と事故防止、医学研究のあり方などについて学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
ミニテスト①	20%	4回目の最初に、これまでの理解度チェックを行う(持込み不可)	
ミニテスト②	20%	7回目の最初に、これまでの理解度チェックを行う(持込み不可)	
期末試験	60%	期末試験で、思考力を問う。持ち込み可。	
課題に対するフィードバックの方法	ミニテスト①	5コマ目の最初の10分間で解説・説明する。	
	ミニテスト②	8コマ目の最初の10分間で解説・説明する。	
	期末試験	電子媒体などで、解説・説明する。	

教科書・参考書、教材等				
教科書は使用しない				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし			
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	医学の歴史概説、医学の定義	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
2	医学研究、エビデンスに基づいた医療（EBM）、ガイドライン	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
3	医の倫理、患者の権利、移植、再生医療	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
4	我が国の医療の問題点、超高齢社会	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
5	災害医療（自然・テロ災害）、チーム医療	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
6	医療の情報化、遠隔医療、ICT 診察	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
7	医療安全、ヒヤリハットと法律	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間
8	医療経済、医療の質の評価、社会保障制度、診療報酬	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め医学一般の思考法の習得に努める。	2.0 時間 2.0 時間

		備 考
受講上の注意点	緊急時以外の授業中の私語・スマホ使用は厳禁。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	臨床工学技士として、医学を定義でき、現代における医学、医療の課題の思考を主眼とする。	

授業科目名	病理学	科目区分	専門基礎科目－医学系基礎
担当教員名	雨海 照祥	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	炎症、免疫、血行動態、臓器別解剖生理学
授業の目的	全身あるいは臓器における疾患を、解剖学的、機能的に明らかにすることを目的とする。病理学の意義、疾病の発病機序、炎症、腫瘍病変などをテーマに、臨床工学士に必要な病理学の基礎を学修する。

ディプロマポリシーとの関係 ◎=主な関連項目、▲=副次的関連項目	◎DP 6（専門分野の基礎となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 病理学総論を学び、将来疾患に遭遇したときに、それが総論のどの分野に相当するの か（例：炎症、腫瘍、循環障害など）を適切に説明できる。 2. 病理学各論を学び、それぞれの疾患の病理学的特徴を正しく理解して説明できる。 3. 各疾患での診断、治療を、病理学的根拠に基づいて正しく理解して説明できる。

授業の概要	病理学は、病気のしくみ（原因と形成機序、全身及び器官・組織・細胞の病態における形態と機能の変化）を理解する学問であり、医学における基礎と臨床を橋渡しするものである。本授業では、細胞レベルの傷害、再生と死、個体レベルの先天異常、代謝栄養障害、循環障害、炎症と免疫、感染症と環境因子、腫瘍及び老化に基づく病態について、原因、生じる変化・その経過、疾病がたどる転帰や、さらに病理組織検査などを総合的に学ぶ。
履修条件 関連科目等	履修条件は特になし。 人体の機能と構造を復習しておくこと。

成績評価方法	課題レポート及び学期末試験を総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
成績評価の種類	評価割合	評価基準
課題レポート①	20%	レポートにより、課題への理解度、知識修得度などを評価する。
課題レポート②	20%	レポートにより、課題への理解度、知識修得度などを評価する。
学期末試験	60%	病理学を論理的に考えて表現できるか、を客観的に評価する。
課題に対するフィードバックの方法	課題レポート①②	レポート採点后に、随時解説する。
	学期末試験	試験後に、内容の解説を開示、伝達する。

教科書・参考書、教材等				
教科書は使用しない				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし			
参考書等				

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	病理学総論 病理学の定義、疾病の発病機構	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
2	炎症 血管透過性の亢進、うっ血	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
3	血液系の病理 造血幹細胞、骨髄異形成、貧血、白血病	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
4	心・脈管系の病理 充血、うっ血、出血、梗塞、心不全	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
5	呼吸器系の病理 閉塞性肺疾患(COPD、肺気腫)、拘束性肺疾患、肺炎、肺高血圧症	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
6	細胞障害の機序と反応、細胞障害への適応と修復	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
7	免疫系の病理（免疫異常） 液性免疫、細胞性免疫	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
8	消化器系の病理 食物アレルギー、炎症性腸疾患	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
9	外環境の情報受容と病理（1） 皮膚と神経（中枢神経、末梢神経）の病理	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
10	外環境の情報受容と病理（2） 眼(角膜、水晶体、ブドウ膜、網膜)、耳(外耳、中耳、内耳)、鼻、舌の病理	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
11	内環境の情報受容と病理（1） 内分泌系（下垂体、副腎皮質、性腺）の病理	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
12	内環境の情報受容と病理（2） 内分泌系（甲状腺、副甲状腺）の病理	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
13	腫瘍 定義と分類、良性腫瘍、悪性腫瘍	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
14	肝臓、膵臓の病理 肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、肝癌、膵炎、膵腫瘍	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間
15	先天性異常 尿路系の発生異常、病理	講義	予習：該当の語句、概念を予習する。 復習：授業内容を十分に復習し、理解を深め病理学の思考法の習得に努める。	2.0時間 2.0時間

		備 考
受講上の注意	緊急時以外の授業中の私語・スマホ使用は厳禁。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	病理学は、正常をしっかりと理解したうえで異常を理解することが重要です。	

授業科目名	生化学	科目区分	専門基礎科目－医学系基礎
担当教員名	山本 英樹	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	糖質、タンパク質、脂質、核酸、代謝
授業の目的	生体を構成する糖質、タンパク質、脂質、核酸の構造や合成、分解について基本事項を学修し、生体の様々な化学物質が生体機能として代謝、利用される機構について概論的に理解し、基本的な事項の説明ができるようになる。生体のエネルギー代謝や恒常性維持の概要を理解することにより、以後の学修の基礎を形成する。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP 6（専門分野の基礎となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 糖質、タンパク質（アミノ酸）、脂質、核酸の種類や構造、特性を説明できる。 2. 生体のエネルギーの産生と蓄積の概要を説明できる。 3. 生物が作り出す代謝産物の生体機能の概要を説明できる。

授業の概要	生物を成り立たせている物質と、それが合成や分解を起こすしくみ、そしてそれぞれが生体システムの中で持つ役割の究明を目的とするのが生化学である。本授業では、生命現象の維持に必要な生体物質の種類（糖質・タンパク質（アミノ酸）・脂質・核酸・生体色素・酵素など）、これら物質の細胞レベルにおける働きと合成、あるいは分解、そして生体の種々の化学物質の生体機能としての利用、代謝などを学ぶ。また、遺伝子の構造と機能の基礎についても学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と小テストを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価	
小テスト	30%	3回の小テストにおける課題への理解度・知識修得度で評価	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。	
	小テスト	授業時間内において解説を行う。	

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進めるが、毎回プリントを配布して説明を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	イラストレイテッド ハーパー・生化学 (原書 30 版)	R. K. Murray 他	丸善出版	978-4-621-30097-8
参考書等	イラストレイテッド 生化学 (原書 7 版)	Denise R. Ferrier	丸善出版	978-4-621-30351-1



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	生命の基盤：糖質、脂質、タンパク質、核酸の基本構造と機能	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
2	タンパク質および酵素の構造と機能	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
3	糖質代謝 1：解糖系とクエン酸回路	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
4	糖質代謝 2：酸化的リン酸化	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業と小テストの課題内容の復習を行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 4.0 時間
5	脂質代謝 1：脂質の合成と輸送	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
6	脂質代謝 2：脂肪酸とコレステロールの代謝	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
7	アミノ酸代謝 1：アミノ酸分解と窒素の輸送	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
8	アミノ酸代謝 2：タンパク質合成と分解	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業と小テストの課題内容の復習を行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 4.0 時間
9	核酸代謝 1：核酸の構造と機能	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
10	核酸代謝 2：遺伝子の複製、修復	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
11	シグナル伝達	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
12	細胞内におけるタンパク質の輸送	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業と小テストの課題内容の復習を行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 4.0 時間
13	糖タンパク質と細胞外マトリックス	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
14	筋肉の収縮	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間
15	血液の成分と生体異物の代謝	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い、理解の定着に努めること。	1.0 時間 3.0 時間

		備 考
受講上の注意	予習を事前に行っておくこと。講義内容を復習すること。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	医療において生化学の知識は極めて重要であるため、積極的に授業に参加し、講義内容を理解してください。	

授業科目名	応用数学	科目区分	専門基礎科目－理工学系基礎
担当教員名	瀧脇 栄治	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	三角関数、複素数、微分、積分、偏微分、行列、微分方程式、フーリエ級数、フーリエ変換、ラプラス変換
授業の目的	工学分野を理解するための数学の基礎を理解し、医療機器の原理を数学的に捉える力を形成する。

ディプロマポリシーとの関係  ◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等）  専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三角関数や指数・対数の計算ができる。</li> <li>2. 複素数の絶対値と偏角を求めることができる。</li> <li>3. 微積分の初等的計算ができる。</li> <li>4. 3次の行列式の計算をすることができる。</li> <li>5. ラプラス変換を使って微分方程式を解くことができる。</li> <li>6. 信号の周波数特性を解析するフーリエ解析の概念を説明できる。</li> </ol>

授業の概要	臨床工学では、生体の生理学的データやCT・MRI、心電図・脳波などの電気信号に見られるデータなどの情報処理技術や生体を対象とした計測・制御において応用的な数学の理解が必要となる。本授業では、その数学的な基礎を学ぶ。具体的には、微分、積分、微分方程式の解法とCR回路の過渡応答解析への応用、ラプラス変換と伝達関数及びシステムの時間応答、信号の周波数特性を解析するフーリエ解析（フーリエ級数展開、フーリエ変換）などについて学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	80%	講義内容を理解し、到達目標を達成しているかどうかで評価。
課題レポート	20%	課題レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	試験期間後に模範解答及び解説を配布する。
	課題レポート	提出後の授業で要点を解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	理工系学生のための基礎数学 第5版	前田純一郎	滋慶医療経営管理研究センター	
参考書等	臨床工学技士標準テキスト 第3版増補	小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏	金原出版	978-4-307-77180-1
	MEの基礎知識と安全管理 改訂第7版	ME技術講習会テキスト 編集委員会	南江堂	978-4-524-24656-4

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	臨床工学技士と数学関数	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
2	関数の極限	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
3	微分	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
4	不定積分	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
5	定積分	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0時間 5.0時間
6	偏微分	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
7	重積分	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
8	行列と級数	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
9	ベクトル・行列	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
10	行列式	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0時間 5.0時間
11	微分方程式	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
12	フーリエ級数	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
13	フーリエ級数	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
14	ラプラス変換	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
15	総まとめ	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0時間 5.0時間

		備 考
受講上の注意		
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	医用電気工学・医用電子工学・医用機械工学・計測工学などを学ぶための数学の基本になります。微積分、微分方程式が自由に使えるよう、頑張ってください。	

授業科目名	医用電気工学 I	科目区分	専門基礎科目－理工学系基礎
担当教員名	淵脇 栄治	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	電圧、電流、抵抗、オームの法則、キルヒホッフの法則、ブリッジ回路、静電容量、正弦波交流、共振回路
授業の目的	電気機器には電気・電子回路が使用されている。機器の動作原理を理解するために必要な電気回路の基礎知識を習得する。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. オームの法則やキルヒホッフの法則を使った電気回路の電圧・電流・抵抗の計算を説明できる。 2. ブリッジ回路を応用した未知抵抗値や、電力・電力量、ジュール熱の計算を説明できる。 3. 正弦波交流の式や、交流に対する素子（R・C・L）の電圧・電流の位相特性を説明できる。 4. 電池の内部抵抗の問題が解くことができる。 5. 共振回路の共振条件と共振周波数を求めることができる。

授業の概要	本授業では、医療機器の電氣的な動作を理解し、運用できる能力の養成のため、電気回路の構成要素や回路構成、動作解析に関する基礎を学ぶ。具体的には、受動素子である抵抗、コンデンサの直列回路や並列回路および直・並列回路、オームの法則とキルヒホッフの法則（第1法則と第2法則）を用いた各種電気回路の計算法、抵抗、電流、電圧の測定機器であるテスタの原理とその倍率などについて学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標を達成しているかどうかで評価。
課題レポート	30%	課題レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	試験期間後に模範解答及び解説を配布する。
	課題レポート	提出後の授業で要点を解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	臨床工学講座 医用電気工学 1 第2版	戸畑裕志, 中島章夫, 福長一義	医歯薬出版	978-4-263-73417-9
参考書等	臨床工学技士標準テキスト 第3版増補	小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏	金原出版	978-4-307-77180-1
	MEの基礎知識と安全管理 改訂第7版	ME 技術講習会テキスト 編集委員会	南江堂	978-4-524-24656-4

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	身のまわりの電気現象 電荷と電流の関係	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
2	電圧と電位の関係 オームの法則 電圧降下	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
3	抵抗率、導電率	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
4	合成抵抗 直列接続 並列接続	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
5	キルヒホッフの法則 電流則・電圧則 テブナンの定理	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0時間 5.0時間
6	重ね合わせの定理 ブリッジ回路	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
7	電圧の測定（電圧計と倍率器） 電流の測定（電流計と分流器）	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
8	電圧源の接続と内部抵抗	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
9	ジュールの法則 電力量と電力 送配電	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
10	交流と直流 正弦波交流の表し方（周期・周波数・角速度・位相） 最大値、平均値、実効値	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0時間 5.0時間
11	正弦波のベクトル表示と計算	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
12	交流に対する素子（R・C・L）の特性 インピーダンス（抵抗・リアクタンス） キャパシタンス・インダクタンス	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
13	直列回路（RC直列回路、RL直列回路） 並列回路（RC並列回路、RL並列回路）	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
14	交流の複素数表記 共振（直列共振回路、並列共振回路） 交流の電力	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
15	変圧器 総復習と総合演習により、講義内容の理解度を測る。	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0時間 5.0時間

		備 考
受講上の注意点	高校の物理の教科書に出てくる電気回路の部分を復習して授業に臨んでください。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	この授業は、電気回路・電子回路（アナログ回路・デジタル回路）の基本になります。臆せずにしっかり学んでください。	

授業科目名	医用電気工学Ⅱ	科目区分	専門基礎科目－理工学系基礎
担当教員名	瀧脇 栄治	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	電界、ガウスの法則、磁界、クーロンの法則、ローレンツ力、ファラデーの法則、レンツの法則、電磁誘導、誘電体
授業の目的	生体計測装置や医用治療機器の原理を理解するために、電気・磁気現象の基礎概念を身につける。

ディプロマポリシーとの関係 ◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。
到達目標	1. 様々な物理現象がどのような電荷の動きによって起こっているか説明できる。 2. 電荷に働く静電気力や電荷がつくる電界の強さを求めることができる。 3. 電流と磁界の関係について説明できる。 4. 電磁誘導やコイルコンデンサの過渡現象について説明できる。

授業の概要	本授業では、電気・電子回路の理解の基盤となる電磁気学の基礎を学ぶ。具体的には、導体と絶縁体及び半導体、イオンや電子の動態、また、静電誘導、電荷と電界、電位と電圧の区別や、電流と磁界の関係、電磁誘導についてコイルの働きと磁束密度や誘導電流の関係について学ぶ。さらに、コイル、変圧器などの働きを理解しながら自己誘導、相互誘導などについて学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし 医用電気工学Ⅰの内容を復習しておくこと。

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標を達成しているかどうかで評価。
課題レポート	30%	課題レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	試験期間後に模範解答及び解説を配布する。
	課題レポート	提出後の授業で要点を解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書に沿って授業を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	臨床工学講座 医用電気工学2 第2版	福長一義, 中島章夫, 堀純也	医歯薬出版	978-4-263-73418-6
参考書等	臨床工学技術標準テキスト 第3版増補	小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏	金原出版	978-4-307-77180-1
	MEの基礎知識と安全管理 改訂第7版	ME 技術講習会テキ スト編集委員会	南江堂	978-4-524-24656-4

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	電磁気学の基礎 電磁気学の考え方、クーロンの法則	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
2	静電界 電界の強さ ガウスの法則を使った電界の強さを求める方法	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
3	電位 電位の定義 電気双極子	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
4	導体と静電界 導体中の電界、電位、静電シールド	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
5	誘電体	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0 時間 5.0 時間
6	電流と電気抵抗	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
7	起電力とジュール熱	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
8	磁束密度 B と磁場 H	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
9	ローレンツ力	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
10	電磁誘導の法則	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0 時間 5.0 時間
11	自己誘導と相互誘導	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
12	磁場のエネルギー	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
13	マクスウェル方程式	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
14	電磁波	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解き理解の定着に努めること。	1.0 時間 2.5 時間
15	総復習と総合演習により、講義内容の理解度を測る。	講義	予習：教科書の該当ページを読む。 復習：授業ノートを元に復習し、章末問題を解く、課題レポートを作成する。	1.0 時間 5.0 時間

受講上の注意	電磁気の現象を理解することと数学的に計算することを分けて考えるようにしてください。まずは現象を理解し、次に計算できるようになってください。	備 考
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	数学が苦手な計算が難しい人も、電磁気の現象だけはわかるようになってください。	

授業科目名	医用電気工学実験	科目区分	専門基礎科目－理工学系基礎
担当教員名	瀧脇 栄治	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	実験

キーワード	オームの法則、電圧計、電流計、ブレッドボード、テスター、デジタル・オシロスコープ、ファンクションジェネレータ
授業の目的	医用電気工学Ⅰ・Ⅱで学んだ基本法則（オームの法則、キルヒホッフの法則、抵抗・コンデンサー・コイルの特性）について実験を通して確認するとともに、抵抗・コンデンサー・コイルの電圧・電流特性をグラフ化し説明できるようになる。

ディプロマポリシーとの関係 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	◎DP6（専門分野の知識となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。 ▲DP3（コミュニケーション力・協働する力）
到達目標	1. テスターで電圧・電流・抵抗の測定ができる。 2. デジタル・オシロスコープとファンクションジェネレータを使用して、回路への入力信号の印加と波形測定ができる。 3. 共振回路の周波数特性を説明できる。

授業の概要	本授業では、医用電気工学Ⅰ、Ⅱで学んだことについて電気回路の設計、組立て、測定などの実験を通して理解を深めるとともに、測定器の原理を理解し、使用方法を修得する。具体的には、デジタルマルチメータの正しい使用方法の修得、電気抵抗についての測定、直流回路を用いたオームの法則やキルヒホッフの法則に関する測定、ブリッジ回路を用いた未知抵抗の測定、様々な交流波形の観測、キャパシタとインダクタを作製しその特性の測定、CR直列回路の周波数特性の測定、CR直列回路の過渡現象の観察、RLC共振回路の周波数特性と測定などを行う。
履修条件 関連科目等	特になし 医用電気工学Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておくこと。

成績評価方法	実技課題と実験レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
実技課題	30%	実習授業中の実技課題での結果を評価する。
実験レポート	70%	実習内容を理解し、到達目標を達成できているかを評価する。
課題に対するフィードバックの方法	実技課題 実験レポート	授業中に実技課題に対する講評を行う。 実験レポートを添削後返却するとともに、全体講評を行う。

教科書・参考書、教材等				
医用電気工学Ⅰ・Ⅱに教科書を参照しつつ、プリントを配布して授業を進める				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	なし (プリント 配布)			
参考書等	臨床工学講座 医用電気工学Ⅰ 第2版	戸畑裕志, 中島章夫, 福長一義	医歯薬出版	978-4-263-73417-9
	臨床工学講座 医用電気工学Ⅱ 第2版	福長一義, 中島章夫, 堀純也	医歯薬出版	978-4-263-73418-6
	MEの基礎知識と安全管理 改訂第7版	ME技術講習会テキ スト編集委員会	南江堂	978-4-524-24656-4



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	ガイダンス（レポートの書き方） 電圧の測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
2	オームの法則 電圧・電流の測定 抵抗値を求める ( $V=I \times R$ )	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
3	抵抗のカラーコードの読み方	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
4	合成抵抗回路の作成	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
5	合成抵抗の測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
6	テスターの使用方法 ゼロ点調整 抵抗の測定、電圧の測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
7	倍率器の説明と製作、倍率器を用いた測定 分流器の説明と製作、分流器を用いた測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
8	デジタル・オシロスコープの操作方法 ファンクションジェネレータの操作方法	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
9	交流波形の測定（正弦波、矩形波）	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
10	コンデンサの充放電特性の説明 コンデンサの充放電波形の測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
11	抵抗・コンデンサ・コイルへ交流電圧印加時の電圧・電流	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
12	R-L 直列回路の交流特性の測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
13	R-L-C 直列回路の交流特性の測定 共振回路の周波数特性の測定	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
14	R-L-C 直列回路の交流特性の測定 グラフ化の説明とグラフ作成	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間
15	電圧・電流の位相に関する演習問題	実習	予習：参考図書やノートの該当部分をおさらいする。 復習：実験レポートの作成。	0.3時間 0.7時間

		備 考
受講上の注意点	実験に必要な基本知識の大半は授業で学んでいるので、該当する教科書と授業ノートを復習して実習に臨むようにしてください。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	複雑な電気回路も基本回路の集合体です。簡単な回路を組み、基本特性を測定できるように、実験や製品開発の基本を身に付けてください。	

授業科目名	情報科学概論	科目区分	基礎専門科目－理工学系基礎
担当教員名	大石 晴樹	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	コンピュータ、アルゴリズム、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク
授業の目的	コンピュータの基礎理論、コンピュータシステム、データベースやネットワークなど情報科学の基本を学び、情報科学の全体像を理解し、ツールとしての情報科学の基本的な事項の説明ができるようになる。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP5（様々なリテラシーと論理的思考力） 研究活動やプレゼンテーション等に必要水準の言語能力、統計及びITに係る一定水準のリテラシー、情報の適切な収集・整理・分析能力を有している。また、論理的・批判的に物事を捉え思考することができる。</p> <p>◎DP6（専門分野の基礎となる分野の知識等） 専門分野を理解し、円滑に学修を進めるために必要な基盤となる学問分野である理工学及び医学分野の基礎を十分に修得している。加えて、これをもって、発展的分野・周辺分野等に関する理解促進や一層の学修を図るための基盤となる素養を備えている。</p>
◎=主な関連項目、 ▲=副次的関連項目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の符号化などコンピュータの基礎理論を説明できる。</li> <li>2. アルゴリズムとデータ構造の考え方や流れ図について説明できる。</li> <li>3. ソフトウェアやハードウェアほかコンピュータシステムの基本的なことを説明できる。</li> <li>4. ネットワークとセキュリティの基本を説明できる。</li> </ol>

授業の概要	医療機器の多くはマイクロコンピュータを内蔵し、信号処理や種々の画像処理に利用しており、臨床工学技士は、情報処理やネットワークの原理や技術について理解しておくことが求められる。本授業では、コンピュータの基礎原理を理解することにより、コンピュータや情報システムを有用な道具として使いこなす能力を身につける。具体的には、まず情報の基礎理論を概観した上で、アルゴリズム、コンピュータの構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティの基礎などについて学修する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
成績評価の種類	評価割合	評価基準	
学期末試験	70%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかどうかで評価	
課題レポート	30%	3回の課題レポートにおける課題への理解度・知識修得度で評価	
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。	
	課題レポート	提出後の授業時間内においてポイントを解説する。 (3回目は、事後に総括講評を提供)	

教科書・参考書、教材等				
教科書により授業を進めるが、一部プリントを配布して説明を行う。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	情報科学の基礎 改訂版	井内善臣、梅田茂樹、 大道卓、山本誠次郎	実教出版	978-4-407-32088-6
参考書等	臨床工学技士標準テキスト 第3版増補	小野哲章、峰島三千男、 堀川宗之、渡辺敏	金原出版	978-4-307-77180-1

業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	情報とコンピュータ ～何を学ぶのか	講義	予習：教科書の1-7,30-32頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
2	コンピュータの歴史	講義	予習：教科書の第3章33-38頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
3	コンピュータの構成要素	講義	予習：教科書の第3章39-65頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
4	情報の表現 ～文字、数値	講義	予習：教科書の第2章10-15頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
5	情報の表現 ～論理演算、論理回路	講義	予習：教科書の第2章16-27頁を読んでおく。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること。	2.0時間 5.0時間
6	オペレーティングシステムとは	講義	予習：教科書の第4章70-77頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
7	オペレーティングシステム ～機能と構造	講義	予習：教科書の第4章77-83頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
8	オペレーティングシステム ～実際の例	講義	予習：教科書の第4章83-96頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
9	システム構築とデータベース ～開発過程	講義	予習：教科書の第5章98-109頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
10	システム構築とデータベース ～DB概念	講義	予習：教科書第5章109-115頁を読んでおく。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること。	2.0時間 5.0時間
11	プログラムとアルゴリズム ～言語	講義	予習：教科書第6章118-124頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
12	プログラムとアルゴリズム ～開発手順	講義	予習：教科書第6章124-130頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
13	ネットワーク ～仕組、形態、制御	講義	予習：教科書第7章136-147頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
14	ネットワーク ～インターネット	講義	予習：教科書第7章148-156頁を読んでおく。 復習：教科書を元に授業の復習を十分に行い理解の定着に努めること。	1.0時間 2.5時間
15	ネットワーク ～セキュリティ	講義	予習：教科書第7章156-164頁を読んでおく。 復習：復習とともに、課題レポートを課すので締切りまでに提出すること。	2.0時間 5.0時間

		備考
受講上の注意点	毎回の講義の終わりにその日の講義に関する小テストと解説をします。成績判定でなく理解を深めるものです。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	毎日の生活でも欠く事のできないコンピュータ、スマホ。その技術基盤を知りブラックボックスの中を理解する。臨床工学技士の仕事に必要な不可欠なITの基礎を学びましょう。	

授業科目名	臨床工学概論	科目区分	専門科目－医用生体工学
担当教員名	廣瀬 稔	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	前期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	臨床工学技士、生命維持管理装置、安全管理、医療事故事例
授業の目的	臨床工学の概念と臨床工学技士が関わる医用工学の概説を通して、臨床工学技術における臨床工学技士の役割と存在意義を理解する。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP7（専門分野の知識と技能） 専門分野に係る知識と技能について、十分に修得が図られており、医療等の現場を想定した場面での活躍を期待できる能力を有している。 ▲DP2（人間性）
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	1. 診断を支援する臨床工学技術について理解し概要を説明することができる。 2. 治療を支援する臨床工学技術について理解し概要を説明することができる。 3. 生体機能を代行する臨床工学技術について理解し概要を説明することができる。 4. 関連する病院設備について理解し概要を説明することができる。

授業の概要	工学的医療技術の著しい普及と拡大によって、医療現場には多種多様な医療機器や臨床工学技術が導入されている。本授業では、臨床工学の概念と臨床工学技士の業務等を理解するために、関連する医療機器の意義や使用目的、基本原理・構造などの基礎的な知識と安全管理技術、および関連する病院設備等の基礎について学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験の結果と課題レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
学期末試験	80%	講義内容を理解し、到達目標をクリアできているかで評価
課題レポート	20%	課題に対する理解度で評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。
	課題レポート	次回もしくは提出後の授業時間内においてポイントを解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書を参照しながら授業を進める。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	臨床工学技士標準テキスト 第3版増補	小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏	金原出版	978-4-307-77180-1
参考書等	MEの基礎知識と安全管理 改訂第7版	ME技術講習会テキスト 編集委員会	南江堂	978-4-524-24656-4
	イラストで見る医療機器早わかり ガイド	小野哲章, 廣瀬稔	学研メディカル 秀潤社	978-4-7809-0823-7

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	医用工学と臨床工学、チーム医療 医療機器の全体像（医薬品医療機器等法を含む）について	講義	予習：臨床工学技士の定義と業務を調べる。 復習：復習とともに課題レポートを課すので、提出期限までに提出すること。	1.0時間 3.5時間
2	生体機能代行装置と臨床工学技士 その1（呼吸管理領域）	講義	予習：呼吸の役割と人工呼吸療法について調べる 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間
3	生体機能代行装置と臨床工学技士 その2（循環補助）	講義	予習：心臓の役割、開心術での人工心肺装置の役割を調べる 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間
4	生体機能代行装置と臨床工学技士 その3（血液浄化領域）	講義	予習：腎臓の役割と血液透析療法について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間
5	生体計測と臨床工学技士（集中治療室、手術室等）	講義	予習：生体情報モニタの測定項目の測定意義と基準値などを調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間
6	治療機器と臨床工学技士	講義	予習：各種治療用機器の使用目的を調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間
7	医療機器の安全管理と臨床工学技士	講義	予習：医療機器の安全管理での臨床工学技士の役割について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間
8	病院設備・医療電磁環境と臨床工学技士	講義	予習：病院設備・電波管理における臨床工学技士の役割について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5時間 2.0時間

		備 考
受講上の 注意点	各講義開始時に前回の内容や課題の解説を行います。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	各講義テーマについて教科書や参考書等に目を通して臨んでください。	

授業科目名	医用機器学概論	科目区分	専門科目－医用機器学
担当教員名	吉田 靖	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	2単位	授業方法	講義

キーワード	医用機器、生体計測機器、医用治療機器、生命維持管理装置、臨床工学技士
授業の目的	各種医療に用いられる医用機器の包括的な管理を担当する臨床工学技士として、本授業の各種医用機器および臨床工学技術の基本的な概説を通して、各種医用機器の臨床的意義や適応、基本原理や構成を理解し、医用機器を適切に管理するための基礎知識を身につける。

ディプロマポリシーとの関係	◎DP7（専門分野の知識と技能） 専門分野に係る知識と技能について、十分に修得が図られており、医療等の現場を想定した場面での活躍を期待できる能力を有している。 ◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目
到達目標	1. 医用機器を人体へ適応した場合の安全性、有効性について説明できる。 2. 医用機器の構造・原理・安全性について説明できる。 3. 医用機器の使用方法や起こり得るトラブルとその対策などが説明できる。

授業の概要	医用機器は生体計測機器と医用治療機器に大別できる。本授業では、医用機器全般について、その役割、構成・原理、安全性等について概略を学ぶ。具体的には、医用機器の安全管理を行うために、医用機器の適用、生体計測・監視用機器、治療用機器、生体機能代行補助機器を中心とした医用機器の基本原則と構成、使用上の注意点とトラブル対応等について幅広く理解する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	学期末試験の結果により評価し、60点以上を合格とする。	
成績評価の種類	評価割合	評価基準
学期末試験	100%	講義内容を理解し、到達目標に達しているかを評価
課題に対するフィードバックの方法	学期末試験	模範解答により解説する。

教科書・参考書、教材等				
教科書を参照しながら授業を進める。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	ME の基礎知識と安全管理 改訂第7版	ME 技術講習会テキスト編集委員会	南江堂	978-4-524-24656-4
参考書等	臨床工学技士標準テキスト 第3版増補	小野哲章, 峰島三千男, 堀川宗之, 渡辺敏	金原出版	978-4-307-77180-1

業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	ME の定義と環境、臨床工学技士との関わり	講義	予習：医用機器に関わる環境について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
2	ME に必要な人体構造と生体物性	講義	予習：人体構造と生体物性について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
3	ME 機器・設備の安全管理 (電撃事故と人体反応、安全基準、安全管理)	講義	予習：ME 機器と設備の安全基準と安全管理を調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
4	ME 機器・設備の安全管理 (医療ガス設備、電磁環境、リスクマネジメント)	講義	予習：医療ガス、電磁環境の安全管理とリスクマネジメントを調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
5	生体電気現象の計測機器 (心電図、脳波)	講義	予習：心電計や脳波計の構成を調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
6	生体非電気現象の計測機器 (血圧、血流)	講義	予習：圧力センサ、流量センサの仕組みを調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
7	呼吸計測装置	講義	予習：呼吸機能評価機器について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
8	医用画像診断装置 (超音波診断装置、X 線、CT、MRI)	講義	予習：医用画像診断装置について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
9	治療用機器① (医療機器による治療技術)	講義	予習：医療機器による治療技術について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
10	治療用機器② (ペースメーカ、除細動器)	講義	予習：ペースメーカ、除細動器について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
11	生体機能代行装置 (血液浄化機器)	講義	予習：血液透析とアフェレーシスの原理と装置について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
12	生体機能代行装置 (呼吸療法機器)	講義	予習：人工呼吸器・酸素療法の基本原則と麻酔器について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
13	生体機能代行装置 (体外循環装置、補助循環装置)	講義	予習：人工心肺、IABP、ECMO、VAD について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
14	生体機能代行装置 ② (内視鏡治療、コンピュータ外科、インターベンション)	講義	予習：内視鏡装置、手術用ロボット、インターベンション治療について調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間
15	一般医療機器と手術用機器、滅菌・消毒	講義	予習：輸液ポンプ、手術用機器と ME 機器の滅菌・消毒管理方法を調べる。 復習：講義内容を再確認する。	1.5 時間 2.5 時間

		備 考
受講上の注意点	原則として教科書に目を通してから講義に臨むこと。	
連絡先(質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	臨床に使用されている医療機器の概要を理解することにより、実務にそった適切な使用方法や機器開発につながる基礎知識を獲得してください。	

授業科目名	多職種連携概論	科目区分	専門科目－地域・連携
担当教員名	和佐 勝史	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	多職種連携、チーム医療、臨床工学、医療安全
授業の目的	多職種連携の意義を理解するとともに、各職種がどのような役割をもってチーム医療を実践すべきか、その中で医療機器のスペシャリストとしての臨床工学技士の役割を理解する。

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP 3（コミュニケーション力・協働する力） 多様な価値観や視点・考え方がることを理解し、他者の意見等を傾聴する力及び自己の意見等を発信する力を適切に発揮することができ、様々な関係者と協働しながら課題等に対処していく能力を有している。</p> <p>◎DP 7（専門分野の知識と技能） 専門分野に係る知識と技能について、十分に修得が図られており、医療等の現場を想定した場面での活躍を期待できる能力を有している。</p> <p>▲DP 1（態度・志向性）</p> <p>▲DP 2（人間性）</p>
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多職種連携の目的、内容、意義を説明できる。</li> <li>2. チーム医療において各職種の役割を説明できる。</li> <li>3. チーム医療において臨床工学技士の役割を説明できる。</li> <li>4. チーム医療が医療安全にどのように貢献するかを説明できる。</li> </ol>

授業の概要	現代の保健・医療・福祉においては、複数の専門職が協働する多職種連携が重要になっている。本授業では、講義により、現代の保健・医療・福祉における多職種連携の理念や意義について概括的に理解するとともに、特に医療を中心とする視点から、様々な医療関係専門職（看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士）の役割や業務内容、それぞれの立場から見た多職種連携の関わり方や意義、課題などについて学ぶ。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	課題レポートおよびプレゼンテーションを総合的に評価し、60点以上を合格とする。	
課題レポート	80%	2回の課題レポートで、多職種連携への知識、理解度を評価
プレゼンテーション	20%	授業への参加態度、前向きな姿勢を評価
課題に対するフィードバックの方法	課題レポート	レポート内容に沿ってポイントを解説する。
	プレゼンテーション	授業中の各学生のプレゼンテーションに対して、講評を加える。

教科書・参考書、教材等				
設定しない。講義ごとにプリント資料を配布する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	プリント配布			
参考書等				



授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	多職種連携、チーム医療とは何か	講義	予習：資料の該当部分を読んでおく。 復習：講義内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
2	チーム医療における各職種の役割－1	講義	予習：資料の該当部分を読んでおく。 復習：講義内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
3	チーム医療における各職種の役割－2	講義	予習：資料の該当部分を読んでおく。 復習：講義内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
4	チーム医療が医療安全にどのように貢献するか	講義	予習：資料の該当部分を読んでおく。 復習：講義内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
5	学生自身が考える多職種連携（チーム医療）への理解	講義	予習：事前に課題をまとめておく。 復習：講義・討論内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
6	各職種がどのような枠割をもってチーム医療を実践すべきか（多職種連携の在り方）－1	講義	予習：事前に課題をまとめておく。 復習：講義・討論内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
7	各職種がどのような枠割をもってチーム医療を実践すべきか（多職種連携の在り方）－2	講義	予習：事前に課題をまとめておく。 復習：講義・討論内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間
8	多職種連携（チーム医療）における臨床工学技士の役割	講義	予習：事前に課題をまとめておく。 復習：講義・討論内容を確認する。	1.0 時間 2.5 時間

		備 考
受講上の注意点	演習課題は事前に各自の考えをまとめておいてください。	
連絡先（質問等）	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生へのメッセージ	積極的な授業への参加を期待します。	

授業科目名	医療機器産業論	科目区分	発展科目－医工連携・専門発展
担当教員名	川久保 芳文	必修・選択	必修
対象年次	1年次	開講学期	後期
単位数	1単位	授業方法	講義

キーワード	医療機器産業、PMDA、立会い、医療機器の開発・製品化・廃棄、医工連携
授業の目的	医療機器産業や医療機器関連企業について学び、その発展に対して臨床工学技士が担う役割についての理解・認識を深める

ディプロマポリシーとの関係	<p>◎DP4（教養や探究心）</p> <p>広く社会の動向に関心を持つとともに、幅広い教養・知識や専門分野に止まらない知的探究心を有し、広い視野、中長期的視点から事象を捉える能力を有している。</p> <p>◎DP8（諸々の能力等を総合的に生かす力）</p> <p>他項目に挙げた様々な能力等を適切に駆使し総合的に生かすことにより発揮される能力の基盤を有している。特に、現場において様々な課題を解決していく能力（課題解決力）、また、生涯にわたり探究心をもって新しい知識や技能を学んでいくことのできる能力（生涯学習力）、さらに、専門分野の周辺分野の知識や実践力などを修得・活用することにより様々な変化する社会の中での確に対応していくことのできる能力（変化対応力）の基盤となる素養を有している。</p> <p>▲DP7（専門分野の知識と技能）</p>
◎＝主な関連項目、 ▲＝副次的関連項目	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の医療機器産業の課題や国における対策について説明できる。</li> <li>2. 医療機器関連企業と臨床工学技士の関わりについて説明できる。</li> <li>3. 医療機器の開発・製品化・廃棄まで一連の流れについて説明できる。</li> <li>4. 医工連携を定義付けして説明できる。</li> </ol>

授業の概要	我が国は、半導体工学や精密機械工学等の分野で先駆的な成果があっても、その医療現場への導入は欧米に比して遅れており、医療機器の貿易は大幅な赤字が継続している状況にある。こうした中で、医学分野と工学分野の連携により、医療機器の開発や新技術の医療現場への導入を加速するための「医工連携」の取組が、国を挙げて推進されている。この取組には、医療機器産業はもとより、医療側の取組やその連携が重要であり、その中で、医学と工学の双方に精通する臨床工学技士の役割は重要である。本授業では、まず我が国の医療機器産業の現状と課題について概観し、医療機器関連企業が有している目的や機能、また現場における課題等について、具体的な事例を紐解きながら考察する。その際、企業内で臨床工学技士がどのような役割を担っているか、今後、どのようなことに貢献することができるかについても考察する。
履修条件 関連科目等	特になし

成績評価方法	期末課題及び小レポートを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
小レポート	40%	各回の授業内容を理解し、それを踏まえたレポートを作成できているかを評価する。	
期末課題	60%	授業内容を理解し、到達目標をクリアできているかを評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	小レポート	次回の授業中に講評を行う。	
	期末課題	講評を付して返却する。	

教科書・参考書、教材等				
授業ごとにプリントを配布して使用する。				
	書名	著者	出版社	備考 (ISBN 等)
教科書 (テキスト)	印刷物配布			
参考書等	図解で学ぶ 医療機器業界参入の必要知識 第2版	宇喜多白川医療設計株式会社	じほう	978-4840749954

授業計画

回数	授業内容	授業の方法	自主学修（予習・復習）	自主学修時間
1	オリエンテーション 日本及び世界の医療機器産業の現状と課題	講義	復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	2.5 時間
2	我が国の医療機器関連企業の特徴と課題	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	1.0 時間 2.5 時間
3	医療機器関連企業と臨床工学技士の関わりについて	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	1.0 時間 2.5 時間
4	医療機器開発における臨床工学技士の役割	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	1.0 時間 2.5 時間
5	医療機器開発における PMDA の役割	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	1.0 時間 2.5 時間
6	医療機器産業と知的財産・特許	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	1.0 時間 2.5 時間
7	医療機器製販企業と研究開発マネジメント	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：授業内容を復習するとともに、小レポートを作成すること。	1.0 時間 2.5 時間
8	臨床工学技士に必要な医工連携の知識	講義	予習：配布資料を読んでおくこと。 復習：期末課題を作成すること。	1.0 時間 5.0 時間

		備 考
受講上の 注意点		
連絡先 (質問等)	オフィスアワーに教員研究室にて学習方法や授業に関する質問・相談を受付けます。	
受講生への メッセージ	一緒に医療機器産業について学びましょう	